週刊 YEARBOOK

1940
昭和15年

日録20世紀

3|10
平成10年3月10日発行
(毎週1回発行)第2巻第9号
¥560
講談社

憂さ晴らしの5日間、「紀元二千六百年式典」開催!
パーマ、指輪から鶏卵まで「贅沢は敵だ!」
ドイツ海軍Uボート、"狼群"作戦で大戦果

「日独伊三国同盟」締結!

祝宴の食事は野戦食に保存食ばかり……
拡大する日中戦争下での憂さ晴らし5日間
「紀元二千六百年式典」開催!

▼11月11日午後1時50分、天皇・皇后が式殿の玉座、御座に着席、祝典が始まる。祝宴の後、奉祝国民歌「紀元二千六百年」を3000人の学生が斉唱。3時すぎに閉会した。

朝日新聞社

「万歳、万歳、万歳」

宮城前広場に歓喜の声が響き渡る。同時に〝皇礼砲〟が轟き、東京市はもとより、日本全国の都市に「万歳」の声がこだました──。時、昭和一五年一一月一〇日、一一時三五分。政府主催の「紀元二千六百年式典」である。

神輿や山車が繰り出し東京は奉祝ムード一色

一一月一〇日、宮城前の約七万坪の式場に参列したのは四万九〇一七人。そこには三ヵ月がかりで造営された杉皮葺寝殿造りの式殿が建ち、中央に天皇・皇后が座る「玉座」「御座」が配置されていた。

午前一〇時五〇分に天皇（三九）・皇后（三七）が入場し、近衛文麿首相（四九）が式典の開会を告げ、君が代を斉唱。さらに近衛は「一系連綿正に紀元二千六百年」とうたい上げる。式典は粛々と進み、「天皇陛下万歳」の唱和で終了した。その模様はラジオ中継され、日本国中の多くの国民が「万歳」に声を合わせた。終了は一一時三五分であった。

午後の東京市は奉祝ムード一色、すさまじいばかりのにぎわいをみせた。奉祝の垂れ幕や日の丸、旭日旗が下がる中、神輿や山車が繰り出し、旗行列や一〇万人の提灯行列が練り歩く。花電車が走り、音楽隊の演奏が響き渡る。省線を利用して市内に殺到した市民は二五〇万人を数え、有楽町駅では、一日の乗降人数が五〇万人と、開設以来の新記録となった。

翌一一日は、同じく宮城前で財団法人「紀元二千六百年奉祝会」主催の祝典が

▲11月10日夕刻から13日にかけて、馬場先門近辺は長蛇の紅提灯行列が続いた。奉祝の長列は二重橋前に到着すると、高々と提灯を掲げ、万歳三唱して引き揚げる。

「国際写真情報」 国際フォト(上も)

▲馬場先門を通る地下鉄産業報国会の奉祝行進。日比谷、銀座は、10日早朝から人波で埋めつくされた。

▶5台の花電車、「奉祝」「浦安舞」「聖寿万歳」「八紘一宇」「四海歓喜」が、三田から新宿まで運転された。

影山光洋

◎表紙　山口淑子は、昭和13年満映に入り、中国人女優・李香蘭としてデビュー。この年は主演作「支那の夜」が大ヒットした。　大鷹淑子提供

祝宴の食事は野戦食に保存食ばかり……
拡大する日中戦争下での憂さ晴らし5日間
「紀元二千六百年式典」開催！

開かれた。出席者は四万九八八六人。この日、外国使臣を代表して祝詞を述べたのが、滞日中は日米開戦回避につとめ、帰国後、日本に降伏を勧告したポツダム宣言にも深く関与したジョセフ・グルー米大使（六〇）だった。この時の様子を彼は自著『滞在十年』にこう記している。

「天皇は、私の演説の要所要所にうなづき、最後に日本が人類の一般文化と福祉に貢献されんことを希望すると述べた時には、非常に力強くうなづいた」

グルーの祝詞の後、天皇の勅語が伝えられ、奉祝舞楽「悠久」の奏楽とともに祝宴へと、祝典は進んだ。祝宴では「饌」と銘うたれた食事が供されたが、主饌の米飯は携帯口糧、汁も粉末味噌を使用した野戦食、副饌も鮭の燻製やのしいかなどの保存食ばかり。紀元二千六百年はめでたいが、〝非常時〟でもあるという政府からのメッセージが色濃く出ている。

この日も東京市内のにぎやかさは大変なものであり、祝宴終了後、一般に開放された宮城前へ人の波が続いた。人々は「玉座」を見て感激し、提灯行列に手を振って楽しんだのである。

そして、ここかしこから聞こえてくるのが奉祝歌「紀元二千六百年」であった。

「金鵄輝く　日本の
栄えある光　身にうけて
いまこそ　祝へ　この朝
紀元は二千六百年
ああ　一億の胸は鳴る」

これは一万八〇〇〇通を超える一般からの応募作品から選ばれたもので、コロムビア、キング、ポリドールからレコード化され、この年の大ヒット曲となった。

▲銀座西1丁目町会が繰り出した山車。　クロマート提供

▲朝鮮の京城（ソウル）に登場した神輿。

▲「満州国」では、新京（現・長春）の建国神廟で万歳三唱。　「写真週報」（2点とも）

国民精神総動員運動の総仕上げとしての祭典

しかし、この〝佳き年〟を、国民すべてが明るくすごしたかというと、そうではない。昭和一二年の盧溝橋事件をきっかけとして勃発した「日支事変」は拡大し続け、重慶の国民政府との戦争は長期化。この年五月から九月にかけて、日本軍は戦時首都・重慶を中心に無差別爆撃を行ったが、中国の抗戦意志をくじくことはできず、戦果はあがらなかった。こうした情勢下、国内では〝銃後〟の緊張をゆるめるとして、盆踊りをはじめ祭りは禁止されていたし、米や炭などの生活必需品も統制が強まり、配給制に。節米のため、正月の酒がたりず、街には水っぽい酒が氾濫した。さらに予定されていた東京オリンピックや万国博覧会が中止となり、国民のフラストレーションは募る一方だったのだ。

「紀元二千六百年」の式典を挙行した理由のひとつは、こういった国民の憂さを晴らすことだった。国民精神総動員運動によって禁止されていた昼酒や芸妓の手踊りを、一一月一〇日から一四日までの五日間に限って、認めたのである。

ところが、地方によっては電力節約のために送電を停止していて、このままではラジオで式典の様子を聞くことができないと、あわてて送電を再開したりと、はなはだ景気が悪かった。式典を報じる「朝日新聞」でも、同じ紙面に米節約のための小麦飯の炊き方を掲載するなど、庶民の生活は楽ではなかった。

式典挙行のもうひとつの理由は、いうまでもなく国威発揚である。悠久の昔から〝万世一系〟の天皇をいただく神国、日本の使命を強調し、愛国心を盛り上げようとした。そもそも紀元が定められたのは明治五年（一八七二）になってのこと。『日本書紀』が神武天皇の橿原宮での即位の年とする西暦紀元前六六〇年を、明治政府が紀元元年と定めたのだ。これを軍部や政府がたくみに利用した。

大政翼賛会の「紀元二千六百年」奉祝のポスターには「祝へ！　元気に朗かに」と書かれていた。一部の市民は「祝へ！」と、お祭りまでも、お上から押しつけられてはたまらないと感じてはいたが、もはやそれを口にできるような社会情勢ではなかった。

五日間の奉祝祭が終わった翌日、この「祝へ！　元気に朗かに」は、たちまち「祝ひ終つた　さあ働かう！」というポスターに張り替えられた。仕組まれた祭りで、憂さを晴らした国民。その前には以前にも増して厳しい統制、そして戦争、敗戦へと続く過酷な道が待っていた。

◀金沢市で作られた、神武天皇菊人形。

吉岡和喜治所蔵
◀小学生女子の「浦安の舞」。丸亀市会下天神社で。

▲第11回明治神宮国民体育大会（10月27～11月3日）で、大日本国民体操官庁体操団によって演じられた「2600」の人文字。　松田正志　JPS

監視の目はパーマ、指輪から鶏卵、醤油まで戦争遂行のための「統制・配給」「隣組」

「贅沢は敵だ！」

▶一〇月六日、大阪市全区の町会婦人部から選ばれた女子青年団員約二〇〇〇人が、「贅沢は敵だ！」と叫びながら行進。　毎日新聞社

泥沼のような中国戦線の拡大は、国家財政に大きな負担をもたらし、政府と軍部は、国民生活に多大な犠牲を強いた。それが広範な物資の統制、配給制度である。また、戦争遂行という国策を国民のすべてに徹底させるため、上意下達組織である「隣組」が全国に作られた。

▲"節米食堂"の「国策の線に副ふ米無し御献立」。大阪・心斎橋のそごうデパートで、7月撮影。　朝日新聞社

統制の対象は広がる一方　息苦しさを増す国民生活

「その頭は電髪をかけてますね」

銀座を歩いていた劇作家・田中澄江（三二）は、「贅沢は敵だ！」と書かれたたすきをした婦人会員からこう声をかけられた。「電髪」とはパーマのこと。「これは自然のくせ毛なんです」と答えると、疑わしそうな表情で「(袂が) ちょっと長くありませんか」と追いうちをかけられた。

東京市内の盛り場一〇ヵ所で、愛国婦人会、国防婦人会などが、監視隊と称して、彼女らが贅沢な装いをしていると判断した人を呼びとめ、注意する運動が始まったのである。また、市内の繁華街一五〇〇ヵ所に、「贅沢は敵だ！」「日本人なら贅沢はできない筈だ！」と大書した看板も出現した。昭和一五年八月一日のことである。設置したのは国策機関「国民精神総動員運動本部」。この日は、贅沢品の製造販売を禁止した、いわゆる「七・七禁令」が発表されてから初めての「興亜奉公日」にあたっていた。

「興亜奉公日」とは、毎月一日、戦地の兵士を思い、全国民が神社に参拝し、禁酒禁煙、一汁一菜で労働奉仕にあたる日と決められていた。また、「七・七禁令」は、贅沢品の新たな製造、販売を禁止したが、この日の運動は、さらに一歩を進めて、奢侈贅沢品を身につけたり、使用することをいっさい禁止するというものだった。

贅沢の槍玉にあげられたのは、最も目につきやすい身なり、服装であった。パーマ、金縁眼鏡、眉墨、アイシャドウ、頬紅、口紅、マニキュア、指輪、高価な着物、帯留めなど広範にわたり、男子の長髪も注意の対象となった。服地も、人絹やスフが奨励されたが、人絹でも、色や柄が派手なら「華美な服装は慎みませう」と書かれた名刺大のカードが手渡されたのである。

中国戦線の拡大による軍事費の増大は、国家財政に大きな負担をもたらし、戦争が国民の日常生活に大きな影響をおよぼしていた。政府は昭和一二年九月、国民精神総動員運動をスタートさせたが、当初はたんなるかけ声倒れに終わり、実効がともなわなかった。そこで、翌一三年六月二九日、国内における綿製品供給禁止の抜き打ち的実施を皮切りに、本格的な統制が開始されたのである。

以後、統制の対象となる品目は、広がる一方となった。鉄鋼製品、皮革、ゴム、ゴム靴、工作機械、石炭はもとより、ガソリン、羊毛、パルプ、鉄、鉛、錫、アルミから氷、鶏卵、からかさ、醤油にいたるまで、あらゆるものが統制の対象と

▶一二月、入荷した新巻鮭を求めて、東京・日本橋での売り出しに行列する人々。　影山光洋

▲10月、東京市牛込区矢来町に、隣組子ども会が誕生した。6歳から高等科2年生までの約100人が参加。　クロマート提供

なったのである。国民生活は日ごとに息苦しさを増していった。統制の強化は、反面、売りおしみ、買いだめ、あるいは闇ルートなどによる価格高騰を生み出し、二重三重に国民生活を圧迫した。

中には「贅沢は敵だ！」の「敵」の前にそっと「素」の字を挿入し、うっぷんを晴らすものもいた。しかし、国民の大勢は、不満を持ちながらも統制を受け入れていった。

だが、統制の波はとどまるところを知らず、ついに昭和一四年一二月一日からは、主食も白米が禁止され、七分づき以下に制限されることになった。これによって年間二〇〇万石の節米がもくろまれたのである。代わって推奨されたのが、うどんやパンなどの代用食。評論家の高田保は、デパートの食堂で鰻丼を注文すると、「鰻うどん」が運ばれてきたと書いている。「どん」は「うどん」の略だと考えればかならずしもインチキではない、と奇妙な納得の仕方をした、という。

食糧の配給ルートを握り個人生活に干渉した隣組

こうして、すべてが戦争遂行の一点に集中していった。「贅沢は敵だ！」という国民生活の引き締めに続いて、九月一一日、内務省は「部落会町内会等整備要項」を都道府県に通達している。これは市町村行政の下請け機関として「町内会」などの自治組織を位置づけ、その下部組織としての「隣保班」、いわゆる隣組結成の統一基準を示すものだった。

おおむね一〇戸内外からなる隣組組織の結成を推進する「とんとんとんからりっと隣組」などという歌謡曲も作られたが、隣組は国策を国民生活の末端まで浸透させる官僚主導型の秘策であった。隣組が担ったのは、出征兵士の見送りや遺族・留守家族への救援活動がおもで、食糧増産、貯蓄の推進、国債の割り当てなどの任務も新たに加えられた。戦争遂行のため、国民をフル稼働させるための末端組織が隣組だったのである。さらに隣組は、防空態勢の一翼をも担うものとされた。消防、灯火管制、警報の伝達、防空訓練なども隣組単位で行われたのである。そうした動員や常会の招集は、回覧板によってリレー式に伝えられた。

その隣組が機能を最大限に発揮できたのは、生活必需品の配給網も兼ねていたことによる。つまり経済統制の末端を担当した隣組は、配給ルートという切り札を握ることで、個人生活をすみずみまで掌握したのである。さらに貯蓄や国債の消化は、隣組単位で割り当てられ、事実上、強制された。極端な場合、住民税額の六倍の貯金を強制したり、貯金通帳を隣組組長が管理する例すらあった。

こうして、消費をぎりぎりまで切り詰め、プライベートな生活の領域まで国家が管理する、高度国防国家体制が作りあげられたのである。

◀隣組の情報伝達は回覧板で。写真は、東京・淀橋区柏木一丁目東部町会のもの。　朝日新聞社

女たちの肖像

“改名指示”後も大活躍！女性上位漫才を創始したミス・ワカナのモダン芸

稲葉真弓

戦時色が濃くなったこの年の三月二八日、内務省は、英語名の芸能人に改名を指示。槍玉にあがったのが、ディック・ミネ、ミス・コロムビアらだった。夫の玉松一郎とコンビを組んで夫婦漫才のジャンルを切り開き、人気絶頂だったミス・ワカナ（明治四三年生まれ）もその一人で、“玉松ワカナ”と改名したが、彼女の場合、旧姓に戻ったと言った方が正しいかもしれない。

ワカナの本名は川本杉子、四歳で父親と死に別れ、読み書きのできぬまま一〇歳で芸能界入り。一四歳で漫才の河内家芳春の門下に入り河内家小芳を名乗ったが、昭和三年、玉松一郎とコンビを組む時、“玉松若菜”と改名。それがミス・ワカナになり、今度は玉松ワカナとなったのである。

ワカナはそれまで、天性の勘と優れた聞き取り能力で、博多弁、広島弁など各地の方言を自在に駆使する早口の喋りで知られていたが、昭和一三年、皇軍慰問団「笑わし隊」に参加、その戦地体験を披露した漫才で脚光をあび、二人の前線報告漫才はレコードにもなるモテモテぶり。戦地に夫や息子を送った人々の耳をそばだたせた。

彼女が切り開いたのは、夫婦漫才のジャンルだけではなかった。女性が一方的に喋りまくる女性上位型漫才の原型を作った先駆者でもあった。漫才作家・秋田実によれば、このコンビはワカナのイニシアチブによってできたものだという。河内家小芳時代、彼女は大阪・楽天地の映画館で無声映画の伴奏をしていた一郎と知り合い恋に落ちたが、親に反対され国元で結婚、三年後、婚家を出奔し大阪で一郎と再会した。青島まで逃げる中「漫才をやろう」と一郎を口説いてコンビを組み、一二年、エンタツ・アチャコで隆盛を誇っていた吉本興業に入社、音楽家志望で不器用な彼に楽器を持たせ、自分だけが一方的に喋りまくる型を考え出したのである。さらにワカナは、裾模様が主流だった舞台に洋服で登場、漫才に初めてアコーディオンを導入して、タップ・ダンスや歌を組み合わせたモダンな芸を見せた。

二人は昭和一四年、新興キネマ演芸部に引き抜かれ、舞台、映画で名コンビとして活躍したが、ワカナは戦後の二一年、当時流行していたヒロポン中毒で死去、二代目をミヤコ蝶々が継いだ。その半生は森光子主演の「おもろい女」で舞台化された。

▲天才漫才師と評されたミス・ワカナ。　吉本興業提供

勝者・敗者

後の沢村賞投手、真田重蔵和歌山・海草中学を率いて夏の甲子園で二連覇達成！

阿部珠樹

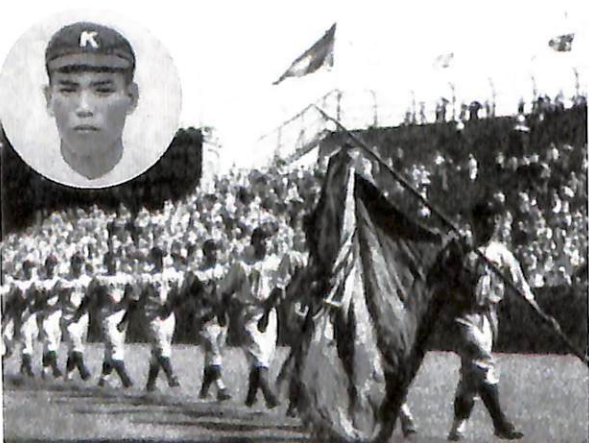
この年、夏の甲子園大会は、「全日本中等学校体育競技総力大会」といういかめしい名称のもとに行われた。中国大陸での戦火が広がり、戦時体制が強化された時代である。戦いの影は、確実に国民生活をおおい始めていたのだ。

八月一二日に始まったこの大会、決勝に勝ち進んだのは、和歌山の海草中学と静岡の島田商業である。海草中学は前年、左腕の剛球投手・嶋清一を擁し、五試合すべてに完封勝ちという圧倒的な強さで選手権を獲得していた。この大会に勝てば連覇の偉業を達成することになる。

連覇の野望に燃える海草中学の先頭に立っていたのが真田重蔵である。前年の優勝時には五番三塁手で出場していた真田だが、この年は、嶋の後を継ぎ、エースで四番という文字どおりの大黒柱だった。

大会が始まると、一、二回戦は連覇への重圧からかコントロールに苦しんだが、準決勝では得意の大きなカーブ（当時はアウドロ＝アウトサイドのドロップと呼ばれた）が冴え、強豪の松本商業を一点におさえる好投を見せ、調子を上げてきていた。

一九日の決勝戦でも真田の投球は勢いを失わなかった。三回裏に一点を先取し、四回に同点に追いつかれたものの、その後は必死に食らいつく島田商業に追撃を許さない。そして七回に貴重な追加点をあげた海草は、そのリードを真田がみごとに守り切って、二年連続優勝の快挙をなしとげた。

嶋と真田、二人の大エースの活躍で偉業を達成した海草中学だが、二人のその後の人生は、明暗を分けた。嶋は卒業後、大学に進んだものの、太平洋戦争で戦死した。一方の真田はプロ野球に入り、朝日、松竹、阪神などで活躍する。その選手生活のハイライトは、昭和二五年。セ・パ二リーグに分裂した最初の年、松竹のエースとして今もセ・リーグ記録として残るシーズン三九勝をあげてリーグ優勝に貢献、沢村賞を受賞する。中学で同じ栄光を味わった二人の、あまりに対照的なその後の人生模様だった。

▶快晴に恵まれた八月一九日、連続優勝した海草中学が、大優勝旗を先頭に退場（円内は真田）。　朝日新聞社

朝日新聞社

▲**関西、電力飢饉（1月27日）**渇水と石炭不足のため午後9時まで停電、大阪の百貨店では雪洞が登場（写真）した。停電はさらに強化され、東京・名古屋にも拡大、3月末まで続いた。

▶**英軍艦、「浅間丸」を臨検（1月21日）**ホノルルから横浜へ帰航中の客船を、千葉県野島崎沖の公海上で停船させドイツ人船客21人を引致（写真）。これを機に、日本の反英運動が一気に再燃した。

朝日新聞社

▲**静岡大火起こる（1月15日）**市街北西部の馬小屋から出火、強い西北の風を受けて次々に延焼、翌日まで燃え続け、静岡市の中心部は灰燼に帰した。死者4人、全焼は4170戸。

▼**天皇・皇后の正月料理（1月1日）**「紀元二千六百年」の元旦を記念、大膳寮が前線将兵と同じ3食を作った。写真は内モンゴル戦線の朝の祝膳。羊肉焼き、黒豆、野菜煮、餅入り高粱粥など。

▼**「伊63号」潜水艦引揚げ（1月22日）**前年2月、四国と九州をへだてる豊後水道で、演習中に僚艦と衝突し81人の乗組員とともに沈没。約1年ぶりに海面に姿を現した。

▼**ガソリンカー炎上（1月29日）**ラッシュ時で超満員の列車が、大阪の西成線安治川口駅付近で転覆、炎上。死者は191人に達した。原因はポイント切り替えのミスだった。

毎日新聞社

昭和15年1月

- 1（月）●六大都市で「文化映画」を強制上映。
- 2（火）●秋津―所沢で武蔵野電車衝突。八十余人死傷。
- 3（水）●橿原神宮、「紀元二千六百年」で三ヵ日参拝が創建以来最高の一二五万人、前年の二〇倍。
- 4（木）●藤永田造船で四一七三人が時間制限令による賃下げにスト（18日愛知時計、浦賀造船も）。
- 5（金）●広島県吉名村、一人一日米三合の通帳制実施。●米が錫・屑鉄の対日輸出を半減に決定と外電。
- 6（土）●対馬沖で朝鮮の密航船転覆。一一五人不明。
- 7（日）●阿部内閣不信任署名議員が二七六人に達する。
- 8（月）●北炭夕張炭鉱でガス爆発。五〇人死亡。
- 9（火）●逓信省集計で年賀郵便が前年比四一％減少。
- 10（水）●モスクワで日ソ通商会議開始（4月打ち切り）。
- 11（木）●津田左右吉、右翼の攻撃受け早大教授を辞任（2月10日『古事記及日本書紀の研究』発禁）。
- 12（金）●米、一五〇隻建艦の海軍拡張計画案を決定。●石炭不足により関西で三〇％の電力制限。
- 13（土）●「満州国」、前年度は九億五〇〇〇万円の入超。
- 14（日）●阿部信行内閣、陸海軍の支持を失い総辞職。
- 15（月）●静岡市で大火。四一七〇戸が焼失。
- 16（火）●米内光政内閣発足。政党から桜内蔵相ら四人。
- 17（水）●大阪逓信局、電力制限違反は送電停止と決定。
- 18（木）●東京府、中学生らの炭焼き動員を中止と決定。
- 19（金）●毛沢東、延安で中国独自の革命を主張する「新民主主義論」を発表。
- 20（土）●古賀政男作曲「誰か故郷を想わざる」発売。●厚生省、初の出産力調査。一夫婦で三・五人。
- 21（日）●英軍艦、千葉県沖で「浅間丸」を臨検、独人引致。
- 22（月）●豊後水道で前年沈没の潜水艦を引揚げ。
- 23（火）●大審院、内縁で妊娠し婚姻届後二〇〇日以内に出生した子は嫡出子と判決。
- 24（水）●工員の監督や集金人に女性の求人増と新聞に。
- 25（木）●北陸で一〇日以来豪雪。雪崩、鉄道不通など各地で被害（27日までに一一六人死亡・不明）。
- 26（金）●日米通商航海条約、失効。無条約状態になる。
- 27（土）●陸軍省、目・耳・鼻などの疾病につき徴兵の身体検査規則を緩和。現役兵の増加をはかる。
- 28（日）●大日本青年党、「浅間丸」事件弾劾演説会開催。
- 29（月）●大阪の西成線安治川口駅付近でガソリンカーが脱線転覆。一九一人死亡、八二人負傷。
- 30（火）●文部省調べで戦時下の工科人気のため医大志願者が激減、定員の五％の大学も、と新聞に。
- 31（水）●北海道・東北をのぞき電力調整令発動と決定（2月10日関東三〇％、関西三五％の削減）。

ニュース・ファイル

1940

フォト＋日録で再現する366日

近衛文麿の「新体制」提唱を機に、政党や団体は次々に改組・解散、翼賛体制は一気に実現した。〝友邦〟ドイツの快進撃と「紀元二千六百年」の祝賀ムードが列島をおおう中、六月砂糖・マッチの配給制、七月贅沢禁止令、九月隣組強化と、日本は総力戦への道を歩み始めた。

◀「贅沢は敵だ！」（8月1日）国民精神総動員本部は興亜奉公日のこの日、銀座（写真）など東京市内の繁華街1600カ所に奢侈自粛の看板を設置。愛国婦人会などが協力し「自粛カード」を手に監視を行った。

（国際写真情報）／国際フォト

▲スパイ嫌疑の「ジャーマン・ベーカリー」夫人が帰国（2月3日）東京・西銀座に店を持つドイツ人の夫の実家から帰国途中、子息とともにフランス憲兵隊に40日余り拘禁されていた。

▶尖閣列島に不時着（2月5日）福岡から台北に向かう定期旅客機「阿蘇号」が、操縦を誤り無人島の魚釣島に不時着（写真）。翌日、乗員乗客13人全員が救援隊に救助された。

朝日新聞社

▲新協、最後の公演（2月2日）東京の築地小劇場で長田秀雄作「大仏開眼」を上演。終演後の8月、特高が関係者を一斉検挙、劇団解散となった。写真は主演の細川ちか子。

坂本万七

▲「橿原道場」で大野試合（2月4日）橿原神宮外苑に、心身鍛練のための大運動場が竣工。その記念に、奈良県奉祝会が主唱する「使用初め」の諸行事が、降りしきる雪の中で行われた。写真は、奈良県下の中等学校生徒1300人の剣道による鍛練。

▼スフ排撃（2月19日）東京連合婦人会の山田わからが、商工省次官らにその質の悪さを訴えた。木綿の代用品のスフはパルプが原料の人造繊維で、水や摩擦に弱かった。

▶斎藤隆夫「反軍演説」で除名（2月2日）衆院で「聖戦は虚偽、国民に犠牲を強いる根拠を示せ」と迫った。翌日、民政党を離党。陸軍の激しい攻撃の中で、3月に議員除名決議案が可決された。写真左は取りはずされる名札。

毎日新聞社

影山光洋

昭和15年2月

1（木）●青少年雇入制限令公布。「不急産業」への就職を制限し、軍需産業に集中させるため。
2（金）●民政党の斎藤隆夫、衆院で日中戦争の戦争目的を批判（3月7日衆議院、除名を可決）。
●新協劇団、「大仏開眼」（演出・伊藤道郎）初演。
3（土）●海員組合、商船乗組員への危険手当を要請。
4（日）●芝・増上寺で「国策豆まき」。本堂内だけにまく。
5（月）●マッチ製造・配給の商工省令公布。統制始まる。
6（火）●山形県で生活綴方運動家・村山俊太郎らを検挙（この後、全国で関係教師約三〇〇人検挙）。
7（水）●スフ製靴下は運動会一日だけで破損と新聞に。
8（木）●「黒色ギャング事件」（10年11月）の無政府共産党幹部ら七人に、無期懲役などの有罪判決。
9（金）●大日本航空、一一人乗り新鋭機「三菱MC20」旅客輸送機を年内就航と発表（9月20日公開）。
10（土）●警視庁、節電実行のため「電力警官」設置。
11（日）●朝鮮総督府、名前を日本式に改める「創氏改名」の受け付け開始（～8月10日）。
12（月）●独からポーランドへ初のユダヤ人移送。
13（火）●高校入試は国史必修で五科目に増加と告示。
14（水）●北海道歌志内炭鉱のガス爆発で二四人死亡。遺体収容中の二四人が生き埋め（15日救出）。
15（木）●商工省が不足する学童の運動靴資材を配給し月二〇〇万足の出荷を手配、と新聞に。
16（金）●月収七〇円以下に家族手当二円と閣議決定。
17（土）●小磯国昭拓相、満州（中国東北部）開拓地の所有権は認めるが譲渡は制限と答弁。
18（日）●関東で学科試験なしの中等学校入学試験実施。
●ビヤホール「ニュートーキョー」、ビール統制と電力飢饉で年中無休やめ定休日設定と広告。
19（月）●築地市場のマグロ入荷量が三倍増。卸値暴落。
20（火）●小田急が帝都電鉄を吸収合併と両社総会承認。
21（水）●閑院宮参謀総長、国民政府との和平工作（桐工作）実行を「支那派遣軍」に指示。
22（木）●物品税法案要綱発表。菓子や石鹸に一割課税。
23（金）●警視庁、木炭バス運転手の中毒防止策を発表。
24（土）●一四年度は交通事故が一八％減少、と新聞に。
25（日）●政府、内閣直属の物価対策審議会設置を決定。
26（月）●商工相・藤原銀次郎、増産促進と闇取り引き根絶のため公定価格の一斉引き上げを言明。
27（火）●農相、産業組合の保険会社買収中止を命令。
28（水）●住友金属、強度の高い超々ジュラルミンの特許取得（おもに戦闘機「零戦」の骨組みに使用）。
29（木）●京都地裁、大本教の出口王仁三郎に無期判決。

朝日新聞社

▶横山大観、陸海軍に50万円を献納（3月）「紀元二千六百年」を記念して日本画「海に因む十題」などを制作、東京の三越、高島屋で4月2～7日に展示、献納金はその売り上げだった。写真は陸軍省で作品集を見せる大観。

「歴史写真」

◀陸軍記念日の銀座（3月10日）東京・代々木では、早朝から中学生一万数千人が参加した実戦さながらの演習を実施。午後1時半には戦車を含む機械化部隊が、市民歓呼の中、都心を行進し宮城前に向かった。

▶汪兆銘、南京に「国民政府」樹立（3月30日）12日に「和平実現、独裁打倒」を声明、この日遷都を宣言し（写真）政府を組織した。しかし、実態は中国支配をめざす日本の傀儡政権だった。

◀豪華客船「新田丸」竣工（3月23日）日本郵船のサンフランシスコ線に就航。1万7150トン、総客数283人、世界で初めて1等客室全部に冷房を設置。5月に横浜港を出帆した。昭和17年空母「沖鷹」に改造され、翌年八丈島沖で米軍の潜水艦に撃沈された。

▶中学入試、学力試験廃止（2月18日）文部省は前年、受験地獄解消策として、入試判定を小学校長の報告書、人物考査、体力検査の3つに決定。この日、新制度の入試が行われた。写真は東京市立第一高女の砂袋を使った体力検査。

◀フィンランド、ソ連に領土割譲（3月12日）前年末以来の猛攻に抵抗したが、ついに和平協定調印。ハンゲー半島周辺の貸与割譲などを約した。写真手前は署名するリチ首相、その後方がスターリン。

「歴史写真」

昭和15年3月

1（金）●渋谷区で天然痘発生。住民一万人に強制種痘。
2（土）●中央航空機乗員養成所開設。初の民間機関。
3（日）●閣議、ガソリン代用木炭株式会社の設立決定。
4（月）●「満州国」、日本向けマッチ用材五割増産決定。
5（火）●大阪商船「盤谷丸」、ハイフォンで仏海軍の臨検を受け、独向け郵便物多数を押収される。
6（水）●横浜―サイパン―パラオ間の定期航空路開設。
7（木）●米、中国に二〇〇〇万ドルの借款供与（9月二五〇〇万ドル、11月五〇〇〇万ドル追加）。
8（金）●津田左右吉と岩波茂雄、出版法違反で起訴。
9（土）●社会大衆党、斎藤隆夫除名反対の片山哲らを除名（21日党首・安部磯雄も離党し分裂）。
●東京の鹿鳴館、破損ひどく取り壊しと新聞に。
10（日）●大阪と名古屋に陸軍幼年学校再開。
11（月）●アルゼンチン、日本に最恵国待遇付与と発表。
12（火）●ソ連・フィンランド講和。ソ連に領土割譲。
13（水）●陸軍、兵器の名称・用語を簡略化し漢字を制限。「弾薬盒→弾入」、「発条→ばね」など。
14（木）●武蔵野デパート（後の西武百貨店）設立。
●柳家金語楼の金語楼劇団が旗揚げ興行。
15（金）●商工省、国産工作機械展を開催。
16（土）●和歌山中学短艇部のボート沈没、七人溺死。
17（日）●小磯拓相、朝鮮から労働者移入は可能と答弁。
18（月）●ムッソリーニ、ヒトラーに独側での参戦約束。
19（火）●卵・海苔など一二品目の標準価格決定。
20（水）●商工省、魚価抑制のため配給会社を設立し東京市内一五〇店に委託販売と決定。
21（木）●農林省など「植樹報国運動」推進を決定。
22（金）●文部省、英米人の時局論文を掲載した高校・大学予科の英文テキスト四種を使用禁止。
23（土）●日本郵船「新田丸」竣工。一等全室に冷房設置。
●日活映画「土と兵隊」、初の文部大臣賞受賞。
24（日）●全インド・ムスリム連盟、イスラム教徒による独立国家パキスタンの建設を決議。
25（月）●衆院議員百余人、聖戦貫徹議員連盟を結成。
26（火）●東京―下関間新幹線建設計画への予算成立。
27（水）●東京などに理数系の臨時教員養成所開設。
28（木）●内務省、ディック・ミネ、ミス・ワカナ、藤原釜足らに改名を命令（芸名統制令）。
29（金）●税制改革諸法公布。戦費調達のため所得税など大衆課税を強化。源泉徴収制度を採用。
30（土）●汪兆銘、日本軍の支援で「国民政府」の南京遷都を宣言し十大政綱を発表（南京政府成立）。
31（日）●片岡千恵蔵主演の「宮本武蔵」封切。

▲宮崎市に「八紘之基柱」完成(4月3日)「紀元二千六百年」を記念し神武天皇ゆかりとされる丘に建設。高さ約40メートル。戦後、平和台公園の「平和の塔」に改称した。

毎日新聞社

◀1等1万円つきの報国債券売り出し(5月13日)日本勧業銀行と郵便局で、10円券と5円券が売り出され、割増金の巨額さが受けて大人気。写真は午前中に売り切れた勧業銀行大阪支店の店頭。

朝日新聞社

◀第2期名人戦始まる(5月1日)木村義雄名人(35)に、13年からの決定戦を勝ち抜いた土居市太郎八段(52、左)が挑戦。千日手2局を含む健闘も7月、1対4で敗退。写真は初日の指初式。関根金次郎13世名人(72、中央)の振り駒で、先手は土居に決まった。

毎日新聞社

朝日新聞社

▲源泉徴収始まる(4月)戦費増大に悩む政府は、所得税の徴収強化に踏み切り、4月から勤労者所得税6パーセントを源泉徴収方式にした。写真は給料日の22日、天引きを確認する桜内蔵相。

▶「生めよ殖やせよ」(5月1日)厚生省がナチスの断種法をモデルに「不健全素質者」の優生手術(断種)と、健全者の産児制限防止を目的にした国民優生法を公布、「優良多産報国」政策を始めた。写真は東京・三越に開設された国立優生結婚相談所。

松田正志/JPS

▶皇太子(6)、学習院初等科に入学(4月9日)午前8時半、制服制帽の姿で赤坂の東宮仮御所を略式自動車鹵簿で出発、沿道の歓呼の声にこたえながら、東京・目白の学習院に9時前到着した。

朝日新聞社

昭和15年4月

1(月) ●俳優の登録制実施。非登録者の出演を禁止。
2(火) ●伊で女性含む一四歳以上の全国民に総動員令。
3(水) ●未許可綿花輸入が激増し税関に山積と新聞に。
4(木) ●国民貯蓄奨励委、貯蓄目標一二〇億円と決定。
5(金) ●東京市内七百貨店で金銀の買い上げを実施。
6(土) ●文芸家協会「文芸銃後講演会」を開始。横光利一、久米正雄ら浜松で第一回講演会。
7(日) ●「愛馬の日」。千余頭が東京市内を行進。
8(月) ●国民体力法公布。一七~一九歳の男子の身体検査を義務化(9月26日施行)。
●警視庁、夜の盛り場を一斉取締り。二七学生の少年工など「不良」青少年三一五四人検挙。
9(火) ●独軍、ノルウェーとデンマークを急襲・占領。
●ニュース映画四社合併し日本ニュース社設立。
10(水) ●デンマーク船、本国が独保護領になったため英艦の洋上臨検をおそれ、横浜出港を中止。
11(木) ●造幣局、銅節約のアルミ十銭硬貨発行。
12(金) ●閣議、資源自給確立の科学動員計画を決定。
●ヘルシンキ市長、五輪開催中止を声明。
13(土) ●日本放送協会、日本初のテレビドラマ「夕餉前」(一二分間)の実験放送を行う。
14(日) ●日独文化協会、第一回日独学徒大会を開催。
15(月) ●京都飛行場、小久保村で起工式を挙行。
16(火) ●厚生省、前線での需要増大と輸入途絶で不足する薬品の配給・統制を五月実施と決定。
17(水) ●能楽五流派、謡本の「不穏当な」字句を改訂。
18(木) ●全国の無医村が一〇年で七〇〇増加と新聞に。
19(金) ●閣議、訓練中の少年飛行兵を現役兵と認める陸軍志願兵令制定を決定(24日公布施行)。
20(土) ●「満州国」で就職の中学校卒業生ら第一陣出発。
21(日) ●大徳寺で三千家が千利休三百五十年忌大法要。
22(月) ●東京府、輸送難で近距離通学は徒歩でと通達。
23(火) ●国民精神総動員中央連盟(精動)、解散(24日国民精神総動員本部を設立)。
24(水) ●米・味噌・醤油など一〇品目に切符制採用決定。
25(木) ●新四国八十八ヵ所巡礼が殺到する愛媛県大島の宿泊所などが、巡礼者に米の持参を要望。
26(金) ●横浜地裁、神奈川県の放火集団事件三七被告全員に無罪。
27(土) ●ノモンハン事件の日ソ捕虜交換を完了。
28(日) ●東京で第一回女子強歩大会開催。
29(月) ●全日本学生演劇連盟創立。会長・久米正雄。
30(火) ●吉田茂厚相、国内物資不足の「デマ」は将兵に想像以上の衝撃、と閣議で前線視察報告。

証言・あの日この日
永井荷風(60)

8月1日(木) 〈正午銀座に至り銀座食堂に飭す。南京米にじゃが芋をまぜたる飯を出す。この日街頭にはぜいたくは敵だと書きし立札を出し、愛国婦人連辻ゝに立ちて通行人に触書きをわたす噂ありたれば、その有様を見んと用事を兼ねて家を出しなり/今日の東京に果して奢侈贅沢と称するに足るべきものありや。笑ふべきなり〉(永井荷風『断腸亭日乗』)

時局への迎合を拒絶し、超然として孤高の道を行く荷風の日課は、ひとり銀座、浅草などの盛り場を徘徊し、お気に入りの食堂で食事をとることだった。しかし、米、炭、味噌、醤油など物資は不足、料理も貧しくなるばかり。それに追い打ちをかけたのが贅沢禁止の「7・7禁令」である。この日、婦人団体が贅沢追放運動に乗り出すと聞くや、荷風もさっそく見学に……。(山崎行太郎)

ROGER・VIOLLET/ユニフォト・プレス

▲西部戦線で独軍、破竹の進撃(5月13日)大攻勢開始わずか3日目でオランダ、ベルギーに侵攻し、5日目にはマジノ線を突破、英仏軍は総崩れとなった。写真はベルギーを進撃する独機甲部隊。

▼大阪の四天王寺五重塔落慶法要(5月22日)昭和9年の室戸台風で倒壊したため再建。「宝塔入仏開眼」、創建者の「聖徳太子聖霊奉安」などが5日間とり行われた。写真は最終日に行われた「事変関係戦没英霊追悼大法会」。

ARCHIVE PHOTOS/アメリカンフォト・ライブラリー

◀チャーチル、「戦時内閣」組織(5月10日)ドイツの西部戦線進撃開始のこの日、国王ジョージ6世の命令を受けたチャーチル(65、前列左から二人目)は労働党アトリーらの協力を得て、わずか閣僚5人の精鋭内閣を組織した。

朝日新聞社

▲関脇安芸ノ海優勝(5月23日)双葉山の休場で荒れた5月場所を、14勝1敗で初優勝、場所後大関に昇進した。広島出身、25歳。前年に双葉山の70連勝をはばみ、一躍名をあげた。

昭和15年5月

1(水) ●国民優生法公布。ナチスの断種法がモデル。
●「支那方面艦隊」改編。司令官・嶋田繁太郎、参謀長・井上成美が就任(重慶爆撃を実施)。
2(木) ●東京市、水質不適の井戸は〇・九%と発表。
3(金) ●東京市、米穀販売店に外米六割混入を指示。
4(土) ●日本―オランダ間で初の国際交換放送実施。
●戦艦「信濃」(後の空母)横須賀工廠で起工式。
5(日) ●ひまし油自給めざす愛国児童協会などが、一二〇〇万児童にトウゴマの種を配布と新聞に。
6(月) ●ダイヤル式公衆電話、丸ビルなどに設置。
7(火) ●米、太平洋艦隊のハワイ無期限滞留を発表。
8(水) ●混雑緩和に急行列車も座席指定導入と新聞に。
9(木) ●共産党再建中の春日正一ら四五人検挙。
10(金) ●独軍、仏・ベルギー・オランダに奇襲攻撃開始(14日マジノ線を突破し仏に侵攻)。
●英でチャーチルが挙国一致内閣を組織。
11(土) ●欧州戦不介入と、蘭印(オランダ領東インド)の現状維持を各国に通告と閣議決定。
12(日) ●東京の渇水が深刻化し水道局の給水車出動。
13(月) ●郵便局などで割増金つき報国債券売り出し。
●米で民間人開発のヘリコプター実験飛行成功。
14(火) ●ペルーのリマで排日暴動。四〇〇〇戸が被害。
15(水) ●米デュポン社、ナイロン・ストッキング発売。
●軍令部、対米戦の図上演習を実施。日本の持久力検討し最大二年と結論(~20日)。
16(木) ●力士二八人が徴兵検査、巨漢・薬師山は第三乙。
17(金) ●陸軍省、民間科学者と第一回兵器研究懇談会。出席者百数十人全員を陸軍嘱託に任命。
18(土) ●海軍、重慶などを空襲する第百一号作戦開始。
19(日) ●「紀元二千六百年」記念全国軍用犬展覧会開催。
20(月) ●前日四敗目の双葉山、「申しわけない」と休場。
21(火) ●川崎市、東京市と水道管連結し送水を開始。
22(水) ●大阪の四天王寺五重塔が再建され落慶法要。
23(木) ●釜山興行の有田サーカスで火災。全動物焼死。
24(金) ●東京魚直配会社、配給品が安い分、ほかの魚が高いとの批判に東京市・商工省などと協議。
25(土) ●米、第一次大戦時の国防審議会復活を決定。
26(日) ●日労加盟の東京瓦斯工組合、解散を決議。
27(月) ●英仏軍、仏北部ダンケルクから撤退作戦を開始(6月4日三四万人脱出し完了)。
28(火) ●三井鉱山、石炭からの人造石油の製造を開始。
29(水) ●ラジオ受信契約数が五〇〇万件を突破。
30(木) ●蒲団綿の代用に脱脂した蒲の穂利用と新聞に。
31(金) ●商工省、砂糖購入制限令施行。越境買い禁止。

PPS

▶「満州国」皇帝・溥儀が再来日(6月26日)「紀元二千六百年」慶祝のため、5年ぶりに来日。東京駅で天皇の出迎えを受け(写真)、東京での公式行事にのぞんだ。7月2日からは関西を訪問し、6日離日した。

◀ドイツ軍パリに無血入城(6月14日)前日仏軍が撤退した早朝のパリを、独軍歩兵師団が行進(写真)、午前10時前、凱旋門に「鉤十字」がひるがえった。ヒトラーは22日、代わったペタン政権との間で休戦協定を結び、宿願をはたした。

「歴史写真」

朝日新聞社

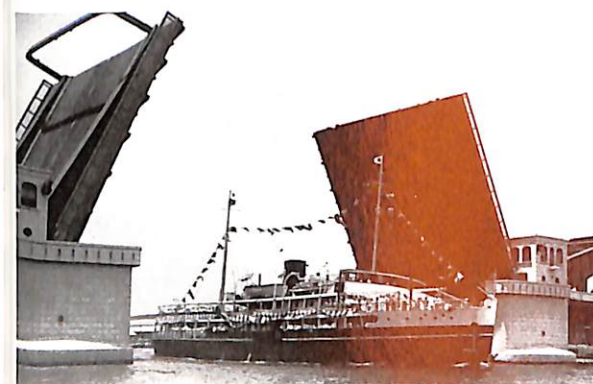
◀ニューヨーク万博日本館開館(6月1日)「明日の世界」をテーマに前年4月開幕、巨大な未来風建築物群と先端技術で人々を驚かせた会場跡に、日本館が開館し、エキゾチシズムをふりまいた。写真は人気となった製糸工程の実演。

朝日新聞社

◀内大臣に木戸幸一(6月1日)湯浅倉平に代わり、50歳という異例の若さで、昭和天皇第一の側近の座に就任。東条などの後継首相指名や、終戦工作を強力に推進した。終戦後、A級戦犯となった。

▶英仏軍34万人、ダンケルク脱出(6月4日)独軍の進撃でドーバー海峡沿岸の地に追いつめられた英仏軍が、英国への脱出に成功。チャーチルは「この救出に勝利あり」と演説。写真は救出を待つ英軍。

◀可動橋の勝鬨橋開通(6月14日)東京の隅田川に、銀座と新興工業地帯の月島を結ぶ橋が完成。全長246、幅22メートル、中央部50メートルが船用に開閉した。写真は初通航する東京湾汽船の「菊丸」。

ユニフォト・プレス

昭和15年6月

1(土)●横浜、名古屋、京都、神戸で砂糖・マッチの切符制を実施(5日東京、大阪でも)。
●大阪市、青バスを買収し、市バスに統合。
●木戸幸一、内大臣に任命される。

2(日)●早慶戦後に両校学生が銀座で騒ぎ七〇人検束。

3(月)●聖戦貫徹議連、全政党解散、新党結成を決議。

4(火)●巨人の沢村栄治、対南海戦で復帰、勝利投手に。

5(水)●長谷川一夫・李香蘭主演「支那の夜」封切。

6(木)●農林省、松・欅・楠を軍需用材に指定。

7(金)●米統合計画会議、日独の侵攻に対して米が独力で戦う「レーンボー計画」を承認。

8(土)●オムツの公定価格決定。梅干は四割値下げ。

9(日)●インド国民会議派を前年脱退のチャンドラ・ボース、独立政権樹立を提唱(7月2日逮捕)。

10(月)●伊、英仏に宣戦布告。ノルウェー、独に降伏。

11(火)●東京・横浜の一二百貨店で「国民服普及の会」。

12(水)●日泰和親友好条約、調印。

13(木)●警視庁、純綿闇取り引き団首謀者三人を検挙。

14(金)●独軍、パリに無血入城(16日ペタン内閣成立。22日休戦協定で仏国土の三分の二を占領)。
●独潜水艦「Uボート」、英仏船団を撃沈する「狼群作戦」開始(~10月。二八〇隻を沈める)。
●隅田川に架かる東洋一の可動橋、勝鬨橋開通。

15(土)●「満州国」五カ年計画、資金難で二三%圧縮。

16(日)●東京府の第三四回配給米は内地米八割、台湾米二割で久しぶりに外米はなし、と新聞に。

17(月)●貸家難の東京で高家賃取った家主に罰金刑。

18(火)●ド・ゴール、英で自由フランス委員会を結成。
●筑摩書房、創業。社長・古田晁。

19(水)●精動本部、中元贈答全廃運動の強化を決定。

20(木)●東京市内二〇カ所に落雷。逓信省に落雷し隣接する大蔵省・厚生省など九官庁が全半焼。

21(金)●仏新政府、日本が求める仏印(仏領インドシナ)と中国の国境封鎖などに同意と回答。

22(土)●文部省、交通難から修学旅行の制限を通牒。

23(日)●水上署が隅田川で水泳教師の認可試験を実施。

24(月)●近衛文麿、枢密院議長辞任。新体制確立を声明。

25(火)●横浜で配給実施以来一〇万人の二重申告判明。

26(水)●「満州国」皇帝・溥儀、五年ぶりに来日。

27(木)●米大統領、国家緊急事態を宣言。

28(金)●戦争保険料率、最高一〇〇%引き上げ決定。
●久米愛ら三人、女性初の弁護士資格を取得。

29(土)●ジョン・ウェイン主演「駅馬車」封切。

30(日)●伊良部島沖で連絡船が転覆。七〇人死亡。

「現場」を歩く 興津
車公害に追われた"元老"西園寺公望の別邸「坐漁荘」跡

山本徹美

▲「坐漁荘址」の浮き彫りがある石碑。右の建物が公民館。　但馬一憲

昭和一五年一一月二四日午後九時四五分、元首相で政界の重鎮として知られる西園寺公望が病没した。

大正三年、政友会総裁を辞した西園寺は、元老職についた。天皇の諮問に答え、次期首相を推薦するなど天皇を補佐する役職である。同五年、西園寺は年末年始を静岡県興津町(現・清水市)にある旅館「水口屋」ですごした。避寒地を物色していた西園寺は、同旅館の所有地約九九〇平方メートルを購入、その後約二六五平方メートルを買いたし、別邸建築にかかる。

大正八年九月、竣工した別邸は木造二階建て、京風数寄屋造りで、渡辺千冬子爵により「坐漁荘」と命名された。太公望こと呂尚が坐って魚釣りをしているのを見た周の文王が礼をつくして軍師に迎えたという故事にちなむ。同年一二月に入居すると、以後二二年間、避暑以外のほとんどをここですごす。

「庭は清風荘(御殿場の別荘)がよいが、眺めはここが一番よい。三保も伊豆も、邸の中にあるようなものや」

と、ご満悦であった。が、のんびりとはしていられなかった。「五・一五事件」以降、重なる政変と軍部が台頭する中、西園寺の意見を求め総理や閣僚が「興津詣で」と称して日参したのである。

逝去から四日後の二八日、遺体は東京に運ばれ、国葬の後、世田谷にある西園寺家墓所に納められた。

景勝の地は喧噪の地に

坐漁荘を訪ねてみた。JR興津駅からタクシーに乗り、国道一号線を西へ約五分の場所にある。大谷石の塀で囲った敷地の中央に築山があり、畳一枚分ほどの石碑が立っていた。「坐漁荘址」と浮き彫りにしてある。西側に鉄筋コンクリート二階建ての建物があり、入り口に「西園寺公記念　興津清見寺町公民館」と看板がかかっている。この公民館を管理している「興津地区まちづくり推進委員会」に問い合わせてみた。

「坐漁荘は、昭和二六年から財団法人西園寺記念協会が史跡として保存するはこびとなり、内部を一般公開しました。昭和四三年、同協会から清水市に土地建物とも寄付されたのですが、自動車の振動や排ガスがひどく、市では家屋の維持管理はむずかしいと判断、坐漁荘は明治村に移転、跡地に公民館が建ったのです」

近所に住む老女が回顧する。

「西園寺さんは天皇陛下の次に偉いというんで、警察がいつも見張っていたけど、ここらの子どもはよく庭に入って遊んでいた。今の公民館は子ども会、自治会の集まりや防災訓練に使われています」

庭に立ち駿河湾の方角を眺めると、バイパスの高架が視界をさえぎる。潮騒ならぬ車の重低音が間断なく響き、この喧噪ではじっくり政局を俯瞰することなどできそうにない。もっとも、西園寺のような"ご意見番"も、いなくなって久しい。

岐阜県
山梨県
神奈川県
愛知県
静岡県
興津
沼津市
清水市
静岡市
駿河湾
伊豆半島
浜松市
御前崎

▲"最後の元老"西園寺公望が、老衰による腎盂炎のため死去した別邸「坐漁荘」。

ベストセラー
高見順が心の風景を描く名作『如何なる星の下に』

◀高見順『如何なる星の下に』(新潮社、1円80銭) 日本近代文学館提供

この年一二月六日、内閣情報部が情報局に格上げされ、新聞などの報道はもとより、雑誌や単行本などの出版についても、強力にコントロールすることになった。そればかりでなく、一種の自主規制機関としての〝日本出版文化協会〟が同月一九日に設立されるなど、出版界周辺にも戦時色は濃厚になってきた。

そんな時代の空気を逆説的に反映してよく読まれた本に、高見順(じゅん)の『如何(いか)なる星の下に』がある。浅草を舞台として物語をリアルタイムに進行させ、時代の雰囲気をあぶり出しのように浮かび上がらせてみせた。国際劇場の踊り子や、小さな寄席に出ている芸人たち、国際通りや六区の町並み、そして、ミルクホールやカフェー、お好み焼き屋、食堂などの様子が細かく書きこまれた。著者自身は後書きで「浅草を背景にして、心の風景を書かうと思つた」と記しているが、著者の心の風景は時代の風景そのものだったのである。

同じ年に、新感覚派の旗手と目されていた横(よこ)光利一(みついち)が、長編『旅愁』の第一巻を上梓(じょうし)した。昭和一一年に渡欧した著者が、その印象をもとに、日本を真っ向から見据える作品に挑戦したのである。作品中で主要な役割をはたす二人の男性はそれぞれ、日本を絶対視する考えとヨーロッパ中心の考えに固執(こしゅう)しており、そこにカトリックを信じる女性がからんで、壮大な思想小説となりつつあった。しかし、昭和二一年の第四巻刊行を最後に、著者自身の死とともにこの長編は、結局、未完に終わった。

日本近代文学館提供

◀横光利一『旅愁』(改造社、全4巻。第1・2巻は2円。第3巻は昭和18年、第4巻は戦後の発売)

戦時体制下でエンターテインメントとして多くの読者を獲得したのは、吉川英治の『三国志』だった。昭和一四年から「北海タイムス」「中外商業新報(現・日本経済新聞)」「台湾日日新聞」などに連載を始めた作品の単行本化である。原典の『三国志』はもともと吉川英治が、たんなる「戦記軍談の類」ではなく、「詩がある」と評価し、愛読していたもので、当然のごとく、力作となった。

▶吉川英治『三国志』(講談社、全一四巻、各一円二〇銭)

スターと名場面
陸軍省のバックアップ！「燃ゆる大空」が大ヒット

マツダ映画社提供

▲「燃ゆる大空」で、攻撃を受け敵地に不時着した飛行機の隠滅をはかる、兵学校の生徒たち。飛行機を燃やす大胆なシーンである。

陸軍省の全面的なバックアップを得て(字幕には「検閲済」とも記された)製作された戦争映画「燃ゆる大空」(監督・阿部豊)が、この年、大ヒットした。兵学校の生徒たちの成長をドラマの核としながら、航空隊の活躍を、空中での実写を駆使して展開してみせた(撮影・宮島義勇、特殊技術・円谷(つぶらや)英一＝後に英二)。斬新なスペクタクル映画であり、まだ実際の戦闘を知らない少年たちの血を大いに沸(わ)き立たせた。

一方、文芸作品として「風の又三郎(またさぶろう)」(監督・島耕二(とうじ))がこの年公開されている。劇団東童の公演をもとに作られた映画で、主役の片山明彦のほか、劇団東童の大泉滉(あきら)も出演し、好評を博した。

洋画では、ジョン・フォード監督の名作「駅馬車」が公開され、全速力で逃げる幌馬車とそれを追うインディアンの、スリリングでスピーディなシーンが、観客のど肝(ぎも)を抜いた。脱獄囚役のジョン・ウェインは、それまでB級の西部劇俳優だったが、ジョン・フォード監督に抜擢され出演したこの作品で、一躍スターにのしあがった。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「小島の春」(夏川静江、杉村春子)

「西住(にしずみ)戦車長伝」(上原謙)

川喜多記念映画文化財団提供

▲西部劇の新時代を開いた「駅馬車」。ジョン・ウェイン(中央)の出世作。

キネマ旬報社提供

▲「風の又三郎」でガラスのマントを着た、風の又三郎役の若き片山明彦。

モノ語り'40
"国威"と"贅沢は敵"が叫ばれた年に登場！「国民帽」「さくら天然色フィルム」「空容器回収箱」

▲写真機にもお国を意識した命名　理研光学工業(現・リコー)が前年に発売したカメラ「護国」が話題になった。3×4センチの写真が撮れる、127タイプ(コダックがつけた分類番号で世界共通)のフィルムを使う高級カメラだった。シャッターはフォーカルプレーン式で500分の1秒まで可能。基本的な構造は初期のライカに似ていた。
日本カメラ博物館蔵／乙咩雅一

豊島区立郷土資料館蔵／服部昌一郎

▲誰もが皆同じデザインの帽子を着用　大日本帝国国民服令に基づいて作られた「国民帽」が、この頃は衣料切符で購入できるようになっていた。制定されたのは帽子の形。色は陸軍の軍服と同じカーキ色であれば、その濃淡までは問われなかった。なお男性の礼服としても扱われていた。

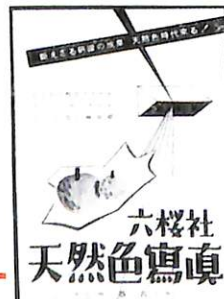
▼大陸のタバコは実りの季節をイメージ　この頃大陸で販売されていた「GOOD CROP(大秋牌香煙)」。発売元は満州煙草で、日本の軍人や居留民にも愛用されていた。「豊作」を意味する英語がブランド名に使われていたが、まもなく〝敵性言語〟として排除される運命にあった。
埼玉県平和資料館蔵／平野美津子

▶資生堂が資源回収運動を推進　各種化粧品は、戦時体制下では不要不急のものとみなされ業界も冷遇されがちだった。そんな状況の中で資生堂は〝われ等の兵站線・空容器回収運動〟を推進し、そのための「空容器回収箱」を各販売店においた。箱には3種類あったが、そのどれにも〝一個の容器も興亜の資源〟が、スローガンとして書きこまれていた。

▼カラー写真の時代に大きく前進　小西六本店(現・コニカ)がこの年「さくら天然色フィルム」の完成を発表し、大いに話題を呼んだ。技術的には〝多層式発色現像法天然色フィルム〟というもので、アメリカ、ドイツに次ぐ画期的開発だった。発表は11月3日に社内で、続いて11月26日に陸軍、27日海軍の関係者に、28日業界関係者に行われ、写真メディアへの期待感を高めた。翌年6月、35ミリ18枚撮り10円で発売された。

◀国家的行事がきっかけで開発された照明具　「紀元二千六百年」記念事業のひとつとして行われた、法隆寺金堂壁画模写のために、折から東京芝浦電気(現・東芝)が研究開発中だった蛍光ランプの採用が決まり、その完成が急がれた。かくしてできあがった蛍光ランプの評判は高く、写真のような行灯(あんどん)形の「蛍光ランプスタンド」も製作され売り出された。
東芝ライテック提供

国家の威信をかけてカラーフィルムを開発

カラー写真は、写真術発明以来の夢だったが、昭和10年に、アメリカのイーストマン社が、その翌年にはドイツのアグファ社が、それぞれカラーフィルムを発表、開発競争の様相を呈していた。カラーフィルム製作は当時の最先端技術のひとつであり、そのような技術を有しているかどうかは、国家の威信にもかかわることだった。それだけに、小西六の研究開発部門でもあった六桜社の技術陣が、普通のカメラでも撮れるカラーフィルムを開発した喜びは大きかった。写真の広告はその当時のもので、「天然色時代来る！」のコピーがその昂揚した気分をよく表している。

◀小西六の広告コピーは「断えざる研鑽の成果」と誇らしげだった。

▲昭和二〇年一二月、近衛は「戦争前には軟弱だと侮られ、戦争中は和平運動者だと罵られ、戦争が終れば戦争犯罪者だと指弾される」と嘆息したという。

人物クローズアップ

近衛文麿（四九）

大政翼賛会の道を閉ざした〝先手論〟からくる問題発言

昭和一五年一〇月一二日、近衛文麿首相（四九）が推進していた新体制運動が、大政翼賛会の発足となって結実した。発会式の会場となった首相官邸には、首相以下の全閣僚に加え、貴・衆両院議長、内閣参議、それに、すでに解党した政党の総裁ら計約一〇〇人が出席。会の総裁には近衛自身が就任した。

近衛の新体制運動は、第一次近衛内閣の挫折がきっかけだった。第一次近衛内閣が発足してから一ヵ月余りの昭和一二年七月七日、盧溝橋事件が勃発。不拡大方針を掲げる政府の意図に反し、日中間の戦闘は軍部の独断専行によって拡大の一途をたどった。こうした情勢の中、政府は一一月、和平斡旋を駐日ドイツ大使に依頼したが、一二月の南京占領後、日本側に有利な条件を上乗せして提示。翌一三年一月一六日、国民政府の回答の遅れと国内の強硬論を背景に、近衛は一転「国民政府を相手とせず」といういわゆる「近衛声明」を発表した。この声明発表は、日本みずからの足枷となり、以後取り消しに苦慮することとなる。

新体制運動は、「近衛声明」で軍部の専横を許し、和平への道を絶つ結果を招いた近衛が、新たな国民組織を結成し、軍部の独走阻止といき詰まった政治体制の打開をめざしたもので、近衛とその側近グループ「昭和研究会」が構想した。

近衛文麿は、明治二四年一〇月一二日、東京市麹町区飯田町（現・千代田区）生まれ。五摂家筆頭の名門の長男だった文麿は、父・篤麿の急死により明治三七年、まだ一二歳で爵位を継ぎ公爵となった。学習院の中等科を卒業後、一高の文科に入学。一高卒業後、東大哲学科に入学したが、河上肇らにひかれて京大法科に転じ、社会主義関係の書物を読みあさった。

▶初閣議を終えた第二次近衛内閣閣僚。近衛の背後の列右端が外務大臣・松岡洋右、左端から二番目が陸軍大臣・東条英機。

毎日新聞社

政治家としての近衛は、在学中貴族院議員を世襲したことに始まる。ずばぬけた毛並みのよさと、元老・西園寺公望の庇護のもと、政界での近衛の累進はめざましく、昭和六年に貴族院副議長、八年には議長となった。そして、九年の国際連盟脱退、一一年の「二・二六事件」と内外ともに情勢が緊迫しつつある中、各界から〝近衛待望論〟が噴出するのである。

しかし、近衛の思惑は常に裏目となって現れた。新体制運動の目標である、民意による下からの国民運動体構想は、軍部、革新右翼、官僚らによって上からの官製運動体に変質。そして近衛は、大政翼賛会発会の挨拶で、みずから「本運動の綱領は、大政翼賛の臣道実践」という言葉を吐いてしまい、自分の手で新体制運動の道筋を閉ざしてしまったのである。この経緯には、第一次近衛内閣における「国民政府を相手とせず」発言と共通するものがある。

防衛庁防衛研究所戦史資料室の庄司潤一郎氏は、こうした近衛の性向を次のように述べる。

「公家出身であることによる実行力の欠如に加え、近衛には、〝先手論〟という独特の理論がありました。軍部などの意図を先んじて読み取り、実行に移す前に手を打つというもので、そうしたやり方で相手をおさえこめると考えていたようです」

敗戦後、近衛は、戦犯容疑で出頭する前夜の昭和二〇年一二月一六日、荻窪の荻外荘で服毒自殺をとげた。五摂家筆頭のプライドが、敵国の裁きを受けるという恥辱を許さなかったのである。

決定的瞬間

お抱え写真家が撮影したストイックな独身主義者ヒトラーの〝甘い生活〟！

第三帝国総統アドルフ・ヒトラーは、政権を掌握してから一二年間、よきにつけ、悪しきにつけ、世界の注目をあびてきた。ドイツ人としては貧相な肉体（身長は一六五センチだったという説がある）、治療痕だらけの歯、青ざめた顔。堂々たる貴族とはかけ離れた容貌の持ち主が、まさに歴史を作っていたのだ。

大衆動員と効果が計算された演説を武器に、第三帝国の将来を憂え、聴衆の中から貧しい少女を選んでは贈り物を与え、「共産主義者とユダヤ人は憎むが、貧しいものたちの味方である」人物になりすましていた。

こうした政治面でのヒトラーに対して、私生活における〝顔〟をかいま見せる写真が戦後二〇年以上たって発見された。この写真はフーゴ・イエーガーが、当時まだ珍しかったアグファ・カラーを使用して撮影したものだ。ヒトラーはこのカラー写真がいたく気に入り、イエーガーをお抱えのカメラマンとして、私生活を含めてあらゆる場所で撮影することを許した。戦後、イエーガーは連合軍によって逮捕されるが、撮影されたフィルムは奇跡的に没収を逃れ、ドイツ西部の田舎町の地中に埋められた。「ライフ」誌はこのカラー・フィルム約二〇〇〇点を歴史上重要なドキュメントとして購入、一九七〇年四月二四日号の同誌に発表することとなる。

写真には晩餐会で婦人に挨拶をする姿、私室のテーブルの上に投げ出された愛用の帽子、またヒトラー好みの背が高くグラマーな女性との団欒など、政治宣伝用にはけっして登場しない等身大のヒトラーが写し出されている。オーストリアの少女たちに囲まれている写真には、「ドイツの娘たち全員に、いいお婿さんをかならず見つけてあげるよ」というのが口癖であった、ヒトラーの父親のような表情がうかがわれる。

ヒトラーの私生活を語る時によく問題になるのは、なぜ独身を通していたのかという問いである。ヒトラー自身は、「私はドイツと結婚している」と答えていた。実際ヒトラーは軍事を含むすべての実権を掌握し、二四時間国家の夫であり、父であり、総統であろうとした。

少女時代からヒトラーと親交のあったヘンリエッテ・フォン・シーラッハ夫人によると、帝国総理府で行われる晩餐会では、各国の大使や貴族は夫婦同伴で招かれ、そんな華やかな雰囲気の中でも、ヒトラーは「どの夫人がサラダをとっていないか」「どの夫人のワイン・グラスが空になっているのか」を注意深く見ていて、給仕に細かい指示を出していたという（『ヒトラーをめぐる女性たち』三修社）。

女性に対して、何かと気をつかうヒトラーの姿が浮かんでくる。しかしすべての権力を握っているにもかかわらず、女性に関してはエヴァ・ブラウン（ヒトラーが自殺する前日、一九四五年四月二九日に結婚）以外の関係は見えてこない。緊張による腹痛と不眠に悩みながら、「第三帝国総統」の役割を演じ続けていたヒトラー。そんな彼のわずかに見せる〝素顔〟が長い歳月を経て「ライフ」誌に登場してきたことは、歴史家のみならず一般にも強い印象を与えるものであった。

◀少女たちの輪の中でご機嫌のヒトラー。こうした機会には、しばしばイエーガーが呼び出され、「早く撮れ」と催促された。

▼ブリュケベルゲの収穫祭で、ジグ・ダンスのステップを踏むヒトラー。女性が大勢詰めかけたので、すっかり気をよくしていた。

フーゴ イエーガー TIME LIFE PPS

美の出会い

天平の"秘宝"を公開！ 東京で初の正倉院展に四一万人の人波が殺到

昭和一五年一一月五日から二四日まで、東京・上野の帝室博物館で「正倉院御物特別展観」が開催された。五日の招待日は閑院若宮（かんいんのわかみや）をはじめ前田侯爵ら二六一三名の来館者でにぎわった。

翌六日から一般公開が始まると、帝室博物館開館以来の人波が押し寄せ、職員を慌てさせた。

「入場を待つ人々の列は博物館正門から蜿々（えんえん）、科学博物館を越え、帝国学士院を通って上野山下に到る大陸橋の向うまで数町続く」（「朝日新聞」一一月七日）という事態に、博物館は皇宮警察の応援を求め、整理・警戒にあたった。しかし最終日には、正門の鉄扉が破壊され、群衆が本館に殺到するといった騒ぎまで起こる熱狂ぶりだった。二〇日間の会期中の入場者は四一万七三六一人を記録する。

この年は紀元二千六百年にあたり、これを記念したさまざまな式典や記念行事が計画された。帝室博物館（総長・渡辺信）が立案した「正倉院展」は、宮内省や一部の学者から秘宝公開に反対する声もあったが、「正倉院御物は国民の大多数が見ることのできない品であるから、二千六百年の祝典というような機会に広く展観することがよい」という美術史家の瀧村精一や国宝保存会会長・細川護立（もりたつ）の賛成を得て、公開のはこびとなった。

正倉院御物は、明治九、一一、一三年の三度、奈良博覧会で公開されたことがあるが、それ以後、一部の研究者以外は目にすることができなかった。まして、東京で公開されることは初めてのことである。展示品は聖武（しょうむ）天皇と深いかかわりのある北倉の品はのぞかれたが、中倉の御物からは梓弓（あずさゆみ）ほか五〇件、南倉からは伎楽面（ぎがくめん）ほか四六件、それに仮庫から染色関係の総数一四〇点が選ばれた。

正倉院から御物が遠く離れた地に運ばれることは、古今に例のないことである。正倉院と博物館の両職員は、微細な損傷もあってはならないと慎重をきわめ、沿道の警備、鉄道輸送には、関係当局と詳細な検討がなされた。万全の態勢のもとに博物館に移送され展示されたが、押し寄せる入場者だけは、予想をはるかに超え、テンヤワンヤの騒ぎとなったのである。

その後、正倉院展は戦後いち早く昭和二一年に開かれる。宮内庁正倉院前事務所長・米田雄介氏は、その時の経緯を語る。

「奈良県知事および奈良観光協会は、東京でも開かれた正倉院展を、地元の奈良でも是非とも開きたいと宮内省に申し入れました。世界に冠たる文化を持っていることに誇りを感じ、敗戦に打ちひしがれている国民の気持ちをふるい立たせたいと考えたのです」

昭和一五年の東京展が、戦局の緊迫化する中、国民を鼓舞（こぶ）する意図で行われたことを思い出させる。

正倉とは、八世紀の律令（りつりょう）体制のもと、稲で納められた税を収蔵するための倉庫のことで、当時は全国にあったが、時代とともに失われ、東大寺正倉院のみが残った。ここに納められた宝物は、光明（こうみょう）皇太后が聖武天皇の冥福（めいふく）を祈り、天皇の遺愛の品々を東大寺の大仏に捧げたのが最初である。この時の目録は「国家珍宝帳」と呼ばれ、六百数十点の宝物名が記されている。

その後も光明皇太后により、数次にわたって献物され、皇太后亡き後は、その遺品が納められ、正倉院宝物の骨格を作った。現在、正倉院宝物は数十万点と言われるが、新たに発見されるものもあり、今なお整理事業は続けられている。

華麗な天平（てんぴょう）宮廷文化の粋と、シルクロードを渡ってきた異国の香りのする品々は、多くの人々のロマンをかきたてている。毎年恒例となった、奈良国立博物館で開かれる秋の正倉院展を待ち望んでいる人々は跡を絶たない。一二〇〇年前のものとは、とても思えない新鮮な宝物を前に、訪れた人は感嘆の声をあげている。

正倉院宝物

◀楓蘇芳染螺鈿（かえですおうぞめらでん）琵琶、長さ一〇〇・三チセン、幅三九・六チセン。保存状態は琵琶五面中最もよく、螺鈿の装飾は、宝相華、鳥、雲などを表す。

東京国立博物館

▶桑木阮咸（くわのきのげんかん）、長さ一〇〇・一チセン、幅三八・二チセン。琵琶に似ているが、胴が丸い絃楽器。
▲「正倉院御物特別展観」に詰めかけた入場者の群れ。帝室博物館に勤務していた、野間清六が描いた。

正倉院宝物

20世紀博物館

トヨタ博物館 愛知県・長久手町

欧米の代表的名車から国産車まで一一七台が"生きて"いる！

桑原茂夫

◀博物館入り口には、日本の自動車史の劈頭を飾った「トヨダAA型」が展示されている。

◀「トヨタ博物館クラシックカー・フェスティバル」では、名車に乗って楽しむことができる。

一九三〇年代は各分野で技術革新が進められた時代だが、戦争の進行とともにその目的も限定されてきた。オートマチックなものへの人類の"夢"をかきたてる存在だった自動車も、その存在意義の大部分を、戦争を支えるツールに変えられていった。「トヨタ博物館」は、そんな暗い時代を経てもなお、失われなかった"夢"を、具体的に見せてくれる博物館なのである。

同館は、トヨタ自動車創立五十周年記念事業の一環として計画され、平成元年にオープンした、日本初の本格的自動車博物館。ガソリン車が開発されて一〇〇年を経たことを記念しての、開館でもあった。

四〇〇〇メートルトラックをワンフロアとして、それを幾重にも重ねたような広大な展示スペースに、一一七台の自動車が並んでいる。しかも、その一台一台が、自動車の長い歴史にエポックを刻んだ名車なのである。そのうえ、ガソリンを入れればすぐにでも動かすことのできる状態で保存され展示されているのだ。

▶ガソリン車第一号と言われている一八八六年の「ベンツ・パテント・モトールヴァーゲン」（レプリカ）。左後方に、二〇世紀初頭の名車「T型フォード」が見える。

▼1950年代の懐かしい国産車。手前から「日野ルノー」「いすゞヒルマン・ミンクス」「日産オースチン」「ダットサン」「トヨペット・コロナ」など。

そのことを可能にしているのは、館内に常駐している四人のベテラン技術者と、ひそかに設けられた車両整備室だ。整備される自動車は、一時的に展示場から姿を消す。だから正確に言うと、展示自動車の台数は流動的なのである。

さて、博物館全体の構成だが、一階にはミュージアムショップや、一万二〇〇〇冊を所蔵する自動車専門図書館があり、フロアの中心部にはトヨタ自動車のスタートを象徴する「トヨダAA型」がおいてある。そして二階に上がると、そこは欧米車ゾーン。二〇世紀初頭の代表的名車、「T型フォード」や、同じ頃イギリスで"静かに"走って人々を驚かせたという、その名も「ロールスロイス・シルバーゴースト」。さらに当時普及するにはいたらなかった、電気自動車や蒸気機関による自動車など、その時代に到達しえた最高の技術を示す自動車が合計五七台、その雄姿を見せている。赤く塗られた自動車が多く、それがなぜかノスタルジックな気分を呼び起こしてくれる。

と、陶酔したところで三階に上がると、同社の誇る「トヨダAA型車」を基点に、国産車が合計五八台勢ぞろいしている。メーカーによる博物館とはいえ、自動車の歴史を追う博物館だから、各社の代表的な自動車を展示している。つい先頃までこの道路を走っていた自動車の数々が、その健在ぶりを主張しているかのようだ。

ちなみに、トヨタ自動車は、明治時代に豊田佐吉が創設した豊田自動織機が、昭和初期、豊田喜一郎の時代に自動車部を設けたのが最初。昭和一一年、この自動車部が「トヨダAA型」を作り出したのだが、この名称は一般公募によって選ばれ、自動車部も独立して「トヨタ自動車」になった。自動織機が自動車を生む——あくまでもオートマチックなものへの人類の"夢"の継続として、自動車は生産されたのである。

●トヨタ博物館
愛知県愛知郡長久手町
☎〇五六一—六三—五一五一
名古屋駅から地下鉄東山線で藤ケ丘駅下車、藤ケ丘駅から名鉄バスで長久手車庫下車、徒歩五分
開館時間＝九時半〜一七時（一一月〜三月は一六時半まで）
休館日＝月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
入館料＝一般一〇〇〇円

トヨタ博物館提供（五点とも）

▲戦前、ステータス・シンボルとして名を馳せた欧米の名車。手前からフランスの「ドゥローニー・ベルビユ」、ドイツの「ベンツ」など。左奥に見えるのは、ルーズベルト大統領の専用車（実物）。

英米との対立を決定的にした"瀬戸際外交"

運命の「日独伊三国同盟」締結！——外相・松岡洋右の野心と蹉跌

▲9月27日の調印式。左からチアノ伊外相、リッベントロップ独外相、来栖三郎駐独大使。同盟条約文の交渉は日独のみで行われ、イタリアは署名段階で加わった。 共同通信社

「私のやり方をよく見てらっしゃい。外交のことは、この松岡にお聞きになったらいい」——一九四〇年（昭和一五）九月二七日、日本は松岡洋右外相のリーダーシップのもと、「日独伊三国同盟」を締結した。しかし、その自信と強引さが、日本を日米開戦の崖っぷちへと追いこんでいく。

調印日に祝杯をあげた「三国同盟」の仕掛け人

一九四〇年九月二七日午後一時一五分、ドイツ・ベルリンにある総統官邸の一室「閣議の間」では、三人の政治家がセレモニーに出席していた。

赤い表紙のついた「日独伊三国同盟」の協定書に署名する来栖三郎駐独大使（五四）、リッベントロップ独外相（四七）、チアノ伊外相（三七＝ムッソリーニ首相の女婿）。日独伊を代表する三人の外相や大使が、戦争相手国以外から攻撃を受けた場合、軍事的、政治的、経済的に援助し合うことを約束。さらに武力による世界再分割をめざして手を握ったのである。

調印終了後に一同が起立すると、この邸の主であるアドルフ・ヒトラー（五一）が笑顔で現れ、それぞれと固い握手を交わした。リッベントロップ、チアノの記念演説が終わり、最後に来栖が「人を生かす剣の精神をもって、この条約が世界平和に貢献することを望む」と語っている間、ヒトラーは部屋中央の椅子に座って満足気にうなずいていた。

一方、天皇が詔書で「（英仏米と決別して）独伊両国との提携を行う」と国策の

転換を告げ、近衛内閣も告諭で聖旨にそうことを訴えた日本国内では、二七日夜から、外相官邸やドイツ大使館で盛大な祝賀会が開かれた。

「騒いで紅潮する松岡外相の頬、高く右手をあげ、『ニッポン！　ニッポン！』と叫ぶオット独大使、（省略）条約の裏に〝密使〟として滞在中のスターマー独公使が今日は覆面をぬいでにこやかに盃を乾す〝世界史転換〟の夜の感動であった」（九月二八日「東京朝日新聞」）

実は、祝いの盃を交わして互いをたたえあったこれらの人物こそ、「三国同盟」の本当の仕掛け人だった。

◀調印式後、来栖（ヒトラーの左）は、「自分にも秘密の間に同盟が締結された経緯に鑑みて」辞意を打電。

▶東京の外相官邸で催された祝賀会。右からオット駐日独大使、インデルリ伊大使、松岡外相、星野企画院総裁、東条陸相。締結の立役者・松岡洋右の思惑は実現するかに見えた。

ドイツの勝利を背景に一層強まる陸軍の主張

「三国同盟」締結前の日本は、日中戦争が泥沼化し、中国を援助する英米との対立も激しくなっていた。孤立する日本の軍部指導者に「満州国」承認などの媚態で接近したのが、政権掌握後、世界有数の陸軍国を作りあげたヒトラーである。

英仏米との戦争に備え、ヒトラーは日本にアジアでの〝牽制役〟を期待。一九三六年（昭和一一）の時点で、「日独防共協定」という〝布石〟も打っていた。

こうした働きかけが功を奏して、一九三六年にドイツがイタリアと「ベルリン・ローマ枢軸」を築き、三九年に第二次世界大戦が勃発すると、陸軍は「ドイツと軍事同盟を結べば、英米の中国援助をやめさせられる」と政府に迫る。

一九三八年、第一次近衛内閣で交渉が始まった「三国同盟」は、その後の平沼騏一郎、阿部信行、米内光政の各内閣を翻弄し続けた。「仮想敵国はソ連だけでなく、英仏も」と主張する枢軸派の陸軍と、「英仏米との関係を悪化させる」と反対する保守派の間で、内閣は指導力を発揮することができなかったのである。

日本の混乱を尻目に、ドイツは一九四〇年にはベルギー、オランダなどを電撃戦で席捲し、パリに無血入城する。

〝バスに乗り遅れるな〟という大合唱の中で、日本に「三国同盟」の締結に踏み切らせたのが、調印日、外相官邸で大騒ぎしていた松岡洋右（六〇）外相だった。

流れを読み違え判断を誤った外相・松岡洋右

オレゴン大学を卒業した松岡は、満州鉄道総裁として植民地経営にたずさわったこともある政治家。国際舞台で「英語で喧嘩ができる」と言われたほどのやり手で、一九三三年に日本が国際連盟を脱退する際には「さようなら」と結んで連盟総会を退席し、国民から英雄視された。

一九四〇年七月、「陸軍をおさえ、米国を敵にしない三国同盟を締結できるのは君だけだ」と近衛に口説かれ、外相に就任したのがこの松岡だった。「誰もなしえなかった日独伊軍事同盟締結によって、英米の介入なしに南進を達成したい」という野心……。松岡はオット独大使とひそかに折衝を開始し、他方では英米派の日本人大使を一気に更迭。締結へ向けて力で押す「瀬戸際外交」を展開する。

そして、九月九日に始まったスターマー特使との交渉で、「対英戦で日本の軍事力は求めない」「日ソの仲介斡旋をはたす」というドイツ案に三回の会談で合意。締結へといたったのである。

ところが、松岡の「対米牽制」「日ソ親善」という思惑は、〝砂上の楼閣〟に終わった。というのも、一〇月二二日にルーズベルト米国大統領が「三国同盟に対抗する」と言明。さらに翌年六月には、ドイツも対ソ攻撃を開始したからである。

「松岡には、三国同盟がソ連を含めた四国同盟に発展し、対米交渉が有利になるという読みがあったと言われています。ところがドイツでは、対ソ戦と、日独伊ソによる対英戦という二つの構想がせめぎあっていた。その中で、松岡はヒトラーが前者を選ぶと読みきれずに同盟を締結したという見方が定説です。一方で、最近では彼が独ソ戦の開始を承知のうえで、国内の反対派をおさえ、北進つまりソ連戦の準備をするために同盟を結んだという新説もある。いずれにせよ、松岡の歴史的評価はまだ定まっていない」と解説するのは、横浜市立大学の非常勤講師でドイツ現代史専攻の大木毅氏である。

日米開戦前の一九四一年（昭和一六）七月、自信過剰がうとまれ、結局閣外に追われる松岡。その際、彼は五年後の自分の運命も暗示するかのような一句を残す。「坊主めが行き倒れたり梅雨の道」。

昭和二一年六月、太平洋戦争終結後の東京裁判で判決が下る前に、松岡は病状が悪化し、六六歳で世を去った。

▶「三国同盟」締結を祝して、日独伊三国の国旗がひるがえる銀座の歩道。

▶近衛文麿ら「荻窪会談」(7月19日) 組閣を前に荻窪の近衛私邸で陸、海、外相候補の東条英機、吉田善吾、松岡洋右(右から)が基本政策を検討した。近衛は、軍部要求の強行策推進を決めた。

「歴史写真」

▶双葉山のスランプ脱出法(7月) 5月場所に4敗し「横綱の地位に申しわけない」と休場した双葉山(28)が、福岡の妙音滝観音堂で3週間の修行。翌年1月場所に優勝をはたした。

毎日新聞社

◀「民族の祭典」大盛況(8月29日) ベルリン五輪の記録映画。リーフェンシュタール総監督の大胆な映像が評判となり、初日の東京劇場に長い行列ができた。

藤本四八/JPS

共同通信社

▲政党政治に終止符(7月) 近衛文麿の「新体制運動」提唱を機に、社会大衆党をはじめ政党解散が相次いだ。写真は16日の政友会久原派。翼賛体制の開始だった。

▶山西省「粛正作戦」、戦果なし(7月8日) 華北方面軍が前月6日に開始、八路軍の掃討をはかったが、山岳地での遊撃戦に翻弄され撤退。写真は進軍する日本軍。

毎日新聞社

影山光洋

▲最後のコーヒー(7月) 7・7禁令が公布され、嗜好品は贅沢品になった。写真は東京・銀座の外堀通りにあった喫茶店「娯廊」。「本物」を飲める日は残り少ないとあって、ファンが押しかけた。

昭和15年7月

1(月) ●関門・小倉両港が統合し国際港の関門港誕生。
2(火) ●英、ロンドン在住の児童を国外避難と決定。
3(水) ●英軍、仏艦隊を砲撃(5日仏、対英断交)。
4(木) ●沢田参謀次長、倒閣のため畑陸相に辞任要求。
5(金) ●「昭和維新」を掲げ、武装蜂起を準備した影山正治ら三〇人検挙(第二神兵隊事件)。
6(土) ●社会大衆党、解党(7日東京交通労組も解散)。
7(日) ●奢侈品等製造販売制限規則施行(七・七禁令)。
8(月) ●日本労働総同盟が解散し産業報国会に合流。
9(火) ●大蔵省、資金統制強化のため金融機関に四半期ごとの貸出残高報告を要求と決定。
10(水) ●岩波書店など三十数社の左翼出版物を発禁。
11(木) ●仏中部のビシーにペタン独裁政権成立。
●関西六知事、食堂などの米食廃止申し合わせ。
12(金) ●伊豆・三宅島噴火(~8月9日)。三一人死傷。
13(土) ●製糸連合会、糸価下落で二五㌫操短と決定。
14(日) ●富士山で暴風雨。岩窟に登山者数百人が避難。
15(月) ●新京(長春)に天照大神祀る建国神廟を創建。
16(火) ●政友会久原派、解党(30日中島派も解党)。
●ヒトラー、英本土上陸作戦の準備を指令。
17(水) ●厚生省、体力章検定結果発表。合格率二七㌫。
18(木) ●日本農民組合総同盟、「無条件解散」を届け出。
19(金) ●近衛文麿、私邸で四首脳会議(荻窪会談)。
20(土) ●霧島昇・渡辺はま子歌「蘇州夜曲」発売。
21(日) ●バルト三国議会、ソ連への加盟を議決。
22(月) ●第二次近衛文麿内閣成立。陸相・東条英機。
23(火) ●近衛首相、ラジオで「一億一心、真実の御奉公を」と発言。「一億一心」が流行語に。
●東京市精動婦人同盟、八月一日から繁華街で「贅沢女狩り」を展開と決定。
24(水) ●海軍、戦闘機の「零戦」を制式採用。
25(木) ●鉄道省、寝台車の浴衣を八月から全廃と発表。
26(金) ●閣議、「大東亜新秩序」「国防国家建設」などをもりこんだ基本国策要綱を決定。
27(土) ●憲兵隊、スパイ容疑で在日英国人を多数逮捕(8月2日英、在英日本商社支店長らを逮捕)。
●大本営政府連絡会議、武力南進政策を決定。
28(日) ●大阪で全国初の相乗りタクシー実施と新聞に。
29(月) ●スパイ容疑のロイター通信員、飛び降り自殺。
30(火) ●鰻蒲商組合が鰻丼の最低自粛価格を五〇銭に。
31(水) ●米、航空機用ガソリンの東半球輸出を禁止。
●植村救世軍司令官ら七人、スパイ容疑で検挙。
●リトアニアの日本領事代理・杉原千畝、ユダヤ難民八〇〇〇人にビザの発給開始(~8月)。

◀7・7禁令、伝統産業を直撃(8月) 絹織物などが「製造禁止品目」になったため、損失額は膨大。京都の織物卸問屋では、在庫の半分が死蔵品となったほど。写真は足利市の織物業者が、女学生らに依頼して、製造禁止になる金糸銀糸を抜いて「普通品」にする作業。

影山光洋

▼法隆寺金堂壁画の模写始まる(8月26日) 周壁12面の国宝仏画の保存・再現のため、画家の和田英作(写真)、中村岳陵、橋本明治らが執筆。しかし翌年、画家の辞退や病気などで暗礁に乗りあげ、昭和24年には火災で焼失、43年になって完成した。

毎日新聞社

影山光洋

▲青果市場も「新体制」(8月) 物資統制と価格抑制のため、22日から青果の最高小売価格制が実施され、「目方売り」となった。市場もこれを受け、従来の指先駆け引きから「公正さ」を期すため「一声競り」に転換した。

▶トロツキー襲撃(8月20日) スターリンの追及から逃れ、1937年来メキシコに滞在。同志といつわって訪ねてきた男にピッケルで襲われた。60歳。亡命後もスターリン批判を続けていた。

PPS

▶建設進む水豊ダム(8月) 朝鮮と「満州国」の重工業を支えるため、鴨緑江下流に昭和12年、日窒コンツェルン系の現地電力会社が着工。高さ106、幅30メートル。出力70万キロワットの巨大ダム。19年に完成した。

毎日新聞社

▶国際色豊かな軽井沢(8月) 第2次世界大戦の勃発が嘘のように、独、デンマーク、スイス、米、伊などの避暑客が和気あいあい。5日からは総出で慰問袋を作ったが、12月には米から離日勧告が出た。

朝日新聞社

昭和15年8月

1(木) ●国民精神総動員本部、「贅沢は敵だ」の立て看板一五〇〇本を東京市内に立てる。
2(金) ●北海道西岸に津波襲来。船千三百余隻が流失。
3(土) ●英極東部長、全英領で日本人検挙開始と言明。
4(日) ●真宗高田派が金襴・金紗廃止を通達と新聞に。
5(月) ●パーマ流行で、警視庁が業界に自粛を命令。
6(火) ●肉類の公定価格実施。東京は品不足で値上げ。
7(水) ●独空軍、大編隊で英本土への昼間爆撃を開始。
8(木) ●呉海軍工廠で「一号艦」進水式。戦艦「大和」と命名(11月1日三菱長崎造船所で「武蔵」進水)。
●全日本科学技術団体連合会設立。一三三の学会・協会が参加。理事長・長岡半太郎。
9(金) ●英陸軍省、中国駐留英軍の総引揚げを発表。
10(土) ●朝鮮の「朝鮮日報」「東亜日報」、強制廃刊。
11(日) ●旧盆と月遅れ盆が重なり、帰省客で上野駅は大混雑。臨時列車一七本増発でもさばけず。
12(月) ●内務省、戦時農村再編に着手。農村報国隊結成。
13(火) ●七月の被服費二年一〇ヵ月ぶり下落と統計局。
14(水) ●東京ロータリー倶楽部解散総会。
15(木) ●立憲民政党、解党。既成政党がすべて消滅。
●東京の鮮魚商、目方売り開始(22日青果商も)。
16(金) ●菓子類を一六種類に制限し公定価格を実施。
17(土) ●閣議、国民生活新体制要綱決定。飲料店の営業時間制限、自動車使用や遊覧旅行の制限など。
18(日) ●肥料闇取り引きで貴族院議員・松本真平起訴。
19(月) ●「零戦」一三機、重慶爆撃機援護で初出撃。
●村山知義・千田是也ら新劇の百余人、一斉検挙(22日新協劇団、23日新築地劇団、解散)。
●夏の甲子園、真田重蔵擁する海草中が二連覇。
20(火) ●八路軍、一一五個連隊により華北で大規模な対日遊撃戦「百団大戦」を開始(~12月5日)。
21(水) ●トロツキー、亡命先のメキシコで暗殺される。
22(木) ●松岡外相、外交人事で親英米派を一斉左遷。
23(金) ●日本ゴルフ協会、賞品・キャディ廃止を決定。
24(土) ●陸軍航空隊、広西省の桂林を爆撃。
25(日) ●賀川豊彦・小川清澄、反戦論述べ留置される。
26(月) ●文部省、法隆寺の壁画模写を開始。
27(火) ●東京の美容業者五〇〇〇人、市内各所に新体制髪型・服装相談所を開設。
28(水) ●救世軍、救世団に改称、英本部と絶縁と発表。
29(木) ●ベルリン五輪の記録映画「民族の祭典」封切。
30(金) ●文部省、学生の映画鑑賞を土・日に制限と通達。
31(土) ●横山隆一、清水崑ら漫画家六三人が新日本漫画協会を結成(11月機関誌「漫画」創刊)。

ユニフォト・プレス

▼「ぼくらの翼」(9月29日)航空日本30周年を記念、全国各地で第1回全日本模型航空機競技大会が一斉に行われた。近畿大会(写真)は西宮球場外園で開催。300人の青少年が、自慢の愛機を大空に放った。

▶東京ー新京(長春)、祝賀通話(9月10日)無装荷ケーブルによる長距離電話の完成を祝った。逓信省の松前重義らが開発した日本独自の画期的な方式で、音質がよく伝送容量が大きいため多重通信が可能だった。

毎日新聞社

「歴史写真」

▶米、屑鉄の対日輸出禁止(10月16日)前月末に日本軍が実施した北部仏印(仏領インドシナ)武力進駐に対する米国の報復措置だった。写真は米ポートランド港に放置された屑鉄の山。

◀独空軍、ロンドン空襲(9月7日)世界最強と言われたドイツの空軍機900機が襲来、市内各所を火の海にした。猛襲は9日間におよんだが、15日には英空軍機が、独機を果敢に迎撃、首都を救った。写真は防空壕に避難した子どもたち。

▶日本軍、北部仏印に武力進駐(9月23日)「松岡・アンリ協定」などでフランスに進駐を認めさせたが、現地軍の強硬派が砲撃するなど、流血をともなう進駐となった。写真は国境の町・ドンダン占領に向かう日本軍。

毎日新聞社

「写真週報」

▶鎧球(アメラグ)で早慶圧勝(10月20日)第1回定期東西対抗試合が西宮球場で行われ、慶大対同志社大55−0、早大対関大29−0(写真)と地力の差を見せつけた。鎧球(がいきゅう)は前月まで「米式蹴球」だった。

朝日新聞社

昭和15年9月

1(日)●東京市、新聞紙を含め包装紙の使用を禁止。

2(月)●贅沢料理禁令施行。五円を超える夕食禁止。

3(火)●東京興行者協会、最高料金を協定。演劇・相撲五円、映画一円二〇銭。

4(水)●警視庁、一区域に一産業報国会結成を通牒。

●文化協会調べで、農漁村での新聞購読者は多い村で四〇㌫弱、ラジオは一五㌫、と新聞に。

5(木)●曽我廼家五郎ら「報国演劇勧仕隊」結成。

6(金)●東京全域で防空訓練警戒管制始まる。懐中電灯の売り上げが通常の三〇~四〇倍に。

7(土)●独空軍、ロンドンを猛爆撃(~15日)。

8(日)●東京で日本脳炎流行。累計で七九人死亡。

9(月)●米で航空機一万八〇〇〇機製造など予算成立。

10(火)●郵便貯金が七〇億円突破。五ヵ月で一〇億増。

11(水)●内務省、町内会・隣保班・市長村常会など整備要綱を通達。隣組制度の整備・強化。

12(木)●文部省、中等学校制服の色を男子は国防色(カーキ色)、女子は紺に統一と決定。

●野球連盟、英語使用禁止、引き分け試合廃止決定(16日スタルヒン投手、「須田博」と改名)。

13(金)●伊、エジプトへ侵攻(10月ギリシャへ侵攻)。

●講談落語協会、艶笑物や博徒物など口演禁止。

14(土)●大本営、北部仏印進駐を発令。

15(日)●警視庁、二〇㍍以上からの撮影を取締り。

16(月)●米、選抜徴兵制実施。一六〇〇万人が登録。

17(火)●織田作之助『夫婦善哉』(8月刊)一部削除処分。

18(水)●ニューヨーク万博日本館と庭園を同市に寄贈。

19(木)●御前会議、日独伊三国同盟の締結を承認。

20(金)●朝鮮全土でキリスト教関係者を流言飛語罪など多数検挙(朝鮮キリスト教「不逞」事件)。

21(土)●婦選獲得同盟解散し、婦人時局研究会に合流。

22(日)●東京旅館組合、宿泊料の全国統一などを決定。

23(月)●第五師団、陸路、北部仏印に進駐開始。

24(火)●富山県の尼僧六〇〇人が宗教団体連合会尼僧婦人部を結成。県下二五〇庵で保育所開設。

25(水)●海外婦人協会「第一回南洋行き花嫁講習会」。

26(木)●大日本舞踊連盟、不倫物一掃など自粛決定。

27(金)●日独伊三国同盟、ベルリンで調印。

●東宝移動文化隊結成(11月松竹移動演劇隊も)。

28(土)●対国民政府和平工作「桐工作」、打ち切り。

29(日)●日本競馬会、東京・世田谷に馬事公苑を開設。

●青少年交響楽鑑賞会、会員の音楽体験のためベートーヴェン「歓喜の歌」を全員で合唱。

30(月)●商工省、都市ガス使用規制の一〇月実施決定。

証言・あの日この日

新美南吉(27)

11月17日(日) 〈岡崎公園の体操大会。君が代が吹奏され、みんなの声が合唱している。静かな朝だ/カーキ色の国民服を着たどうどうたる県の役人が、壇の上からしゃべる/「強い体がなければ、戦争に勝てない」すると、反対側の病院あたりから、だれかがそれをそのままおうむ返しにいう。「……勝てない」「強い精神力がなければ、戦争に勝てない」「……勝てない」こだまである。小学生たちは、それがおもしろいので、クスクスわらいだす〉(新美南吉『新美南吉全集』)

『ごんぎつね』でおなじみの童話作家・新美南吉(愛知県在住)は、生まれつき病弱だったため「滅びゆくもの」への感受性は人一倍敏感だった。この日も、国民服姿の勇ましいかけ声の中に、不吉なものを感じ取っていた。国民服令が公布されたのは11月2日。(山崎行太郎)

朝日新聞社

▲全国で特別防空演習(10月1日)5日間にわたって実施。敵機多数襲来、盛り場を盲爆などの想定で爆音・砲撃が轟く中、実戦さながらの訓練を実施。写真は大阪市立大付属小学校で、5日に行われた「本校運動場中央にガス弾落下せり」の訓練。地下防毒室に手作りの防毒マスクをつけた全校児童千余人が、「一糸乱れず」待避した。

▼戸田ボートコース開設(10月31日)埼玉県の荒川戸田橋際に27日完成。全長2400、幅70メートルで静水コースとしては世界一の規模。昭和12年着工、中止になった東京五輪の遺産だった。

▶陸軍が少年航空兵募集(10月10日)埼玉・熊谷陸軍飛行学校に14~16歳の少年が入校した。陸・海軍ともパイロット不足から、飛行学校の拡充が進んでいた。写真は地上操縦検査器による訓練。

藤本四八/JPS

毎日新聞社

藤本四八/JPS

影山光洋

◀銀座街の防空演習(10月2日)特別防空演習の一環として、銀座・日本橋一帯に爆弾・ガス弾が投下という想定で訓練。サイレンが鳴ると通行中のサラリーマンが、空襲解除までビルの陰に待避した。

▲最後のステップ(10月31日)全ダンスホールが「贅沢は敵だ!」の対象となり、この日は、ついに猶予期間の最終日。写真は東京・新宿の「帝都ダンスホール」。平日の5倍もの人たちであふれかえった。

昭和15年10月

1(火)●第五回国勢調査。総人口約一億五二二万人(本土約七三一一万人)。都市部の増加が顕著。

2(水)●牧野富太郎『牧野日本植物図鑑』刊行。

3(木)●米の予想収穫量は前年比八・四㌫減と農林省。

4(金)●近衛首相、「対米戦もやむなし」と発言。

5(土)●食糧資源補充に栄養価高いイナゴをと新聞に。

6(日)●大阪で女子モンペ部隊が贅沢全廃強調大行進。

●ソ連経由のユダヤ人難民第一陣が敦賀に到着(~16年6月。満州含め一万五〇〇〇人来日)。

7(月)●東京地裁、出版法違反の河合栄治郎らに無罪。

8(火)●青森市で大火。二二八戸全焼、三千余人被災。

9(水)●空襲下のロンドン在住日本人が引揚げ開始。

10(木)●島耕二監督・宮澤賢治原作「風の又三郎」封切。

11(金)●紅葉の十和田に観光客激増しバス増発。ガソリンを使いすぎ一〇月末で運行中止と新聞に。

12(土)●大政翼賛会、発会。総裁・近衛文麿。

●小林一三蘭印特使、日中戦争を早急に打ち切り、南方問題の重点的解決を政府に進言。

13(日)●日本方言学会設立。会長・柳田国男。

14(月)●歌舞伎・前進座・新国劇・軽演劇・剣劇の俳優三〇〇〇人が大日本俳優協会を結成。

15(火)●ガンジー、反英不服従運動を開始。

16(水)●米、鉄鋼・屑鉄などの対日輸出を禁止。

17(木)●井上日召と橘孝三郎、恩赦で仮出所。

18(金)●仏ビシー政権、反ユダヤ法公布。重職追放。

19(土)●岸田国士、大政翼賛会文化部長に就任。

20(日)●野球連盟、監督を「教士」、選手を「戦士」、マネージャーを「秘書」などとする新用語を使用。

21(月)●船員徴用令公布。船員を強制的に船舶に配置。

22(火)●東方会、解体宣言。既存政治団体は消滅。

23(水)●政府、増殖による漁業被害が著しいとして米英ソにオットセイ条約(明治44年)廃棄を通告。

24(木)●米穀管理規則公布。町村別割当供出制を実施。

25(金)●防諜協会、「スパイを語る座談会」を開催。

26(土)●鉄道省疑獄(11年)の内田元鉄相に無罪判決。

27(日)●双葉山ら華中・華南戦線慰問相撲の一行帰国。

●日本軍機、寧波を石井機関による生物兵器で本格攻撃実施(ペストによる死者一〇六人)。

28(月)●東京区検事局、南房総で記念撮影したハイカー一三人を要塞地帯法違反で起訴。

29(火)●蘭印の石油供給量決定。日本希望の四分の一。

30(水)●建川駐ソ大使、ソ連に不侵略条約締結を提案。

31(木)●東京の全ダンスホール、この日限りで閉鎖。

●タバコのバットは「金鵄」、チェリーは「桜」に。

オリオン・プレス

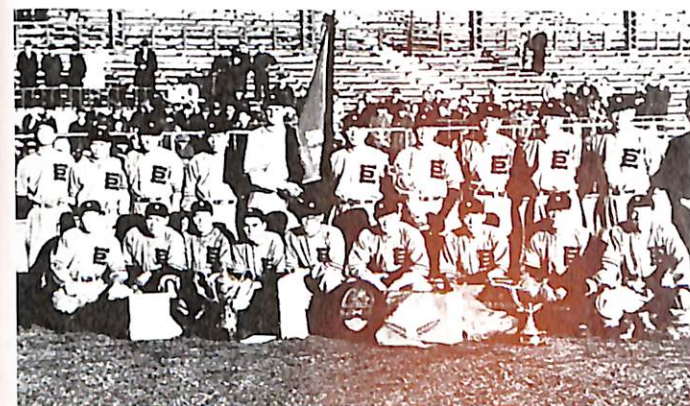
▲ナチス、ワルシャワに「ゲットー」設置（11月16日）高さ2.5メートルの塀で外界と遮断、特に食料は劣悪で、収容された約50万人のユダヤ人のうち1年半の間に10万人が死亡した。写真はゲットーに向かうユダヤ人。

門奈次郎／JPS

▲軍需品になったサメ皮（11月）この年、沿岸性のサメが豊漁だった。皮が牛革の代用品となったため、漁業組合はなめし革にして軍に納めた。写真は千葉県銚子沖のサメ漁。昭和16年にはこれも統制品となった。

三菱重工業長崎造船所提供

▶戦艦「武蔵」極秘に進水（11月1日）「大和」と同型の巨艦。建造中は三菱重工長崎造船所の船台をシュロ縄すだれで囲み、またこの日の進水も、外国領事館前に目隠し用倉庫を急造する（写真）など、機密保持は徹底していた。

▼パラオ諸島コロールに南洋神社（11月1日）天照大神を祀り「紀元二千六百年」を記念して鎮座祭が行われた。日本は大正9年来委任統治領となっていたこの島々で、住民に日本語を教えるなど「日本化」をはかっていた。

毎日新聞社

▲巨人軍優勝（12月8日）主力選手を応召で失った他チームに比べ、戦力充実で独走した。秋からは英語の使用禁止のため、胸の文字は「巨」になり、スタルヒン（24、後列中央）も須田博に改名した。

「写真週報」

▶国民服決まる（11月2日）一般背広型甲号と制服型乙号の2種。色はどちらもカーキ色だった。写真は15日、儀礼章佩用の甲号を着用して宣伝につとめる、大阪・天王寺動物園の人気者ロイド君。

毎日新聞社

昭和15年 11月

1（金）●砂糖・マッチの切符制を全国で実施。
●仏のラスコー洞窟で先史時代の壁画発見。

2（土）●国民服令公布。衣類の簡素化をはかる。

3（日）●厚生省、一〇人以上の多子家庭一万余を表彰。
●小西六（現・コニカ）、独自の技術による初の国産カラーフィルムを発表。

4（月）●日本電力の黒部第三発電所が完工。

5（火）●正倉院御物、東京帝室博物館で初の一般公開。
●ルーズベルト、米史上初めて大統領に三選。

6（水）●逓信省、年賀郵便特別取り扱い制度を停止。

7（木）●用紙規格告示。書籍・雑誌の判型を統一。

8（金）●警視庁、小麦混入（最高五割）米の配給を通達。

9（土）●神祇院設置。神道による国民教化を徹底。
●従業者移動防止令公布。技術者・熟練工が対象。

10（日）●「紀元二千六百年」記念式典開催（～14日）。
●西田幾多郎・川合玉堂ら四人、文化勲章受章。

11（月）●橿原神宮の御神火が特急「つばめ」で東京着。

12（火）●ヒトラー、モロトフ・ソ連外相と会談（ヒトラー、ソ連攻撃準備の継続を極秘命令）。

13（水）●米ウィリス社、四輪駆動（ジープ）完成。

14（木）●雑穀配給統制規則公布。小豆など豆類統制。

15（金）●七大都市で木炭の配給が始まる。
●土浦海軍航空隊開設。少年航空兵を養成。

16（土）●ワルシャワにユダヤ人居住区（ゲットー）設置。
●司法試験合格者数で初めて中大が一位と判明。

17（日）●神奈川県警察部、少年警察官制を廃止。

18（月）●日中和平の銭永銘工作で国民政府が日本軍全面撤退など条件提示（22日日本政府、承認）。

19（火）●住宅難緩和のため住宅営団設立など閣議決定。

20（水）●ハンガリー、日独伊三国同盟に加盟（23日ルーマニア、24日スロバキア加盟）。

21（木）●スフ品質再試験で帝国人絹など五社が不合格。

22（金）●文部省の全国一万余人の児童読書調査で、一位『桃太郎』、二位『西住戦車長』と新聞に。

23（土）●大日本産業報国会、創立。

24（日）●最後の元老、西園寺公望、死去（12月国葬）。

25（月）●東京に根津美術館の設立認可。

26（火）●高等諸学校の教科書が文相の認可制となる。

27（水）●野村吉三郎、駐米大使に任命される。

28（木）●歌舞伎座での尾上菊五郎「六歌仙容彩」が退廃的と警視庁が上演中止命令、と新聞に。

29（金）●放送協会、初めて帝国議会からラジオ中継。

30（土）●中国「南京政府」と日華基本条約締結。
●グリコ、菓子景品の引き換えをこの日で中止。

朝日新聞社

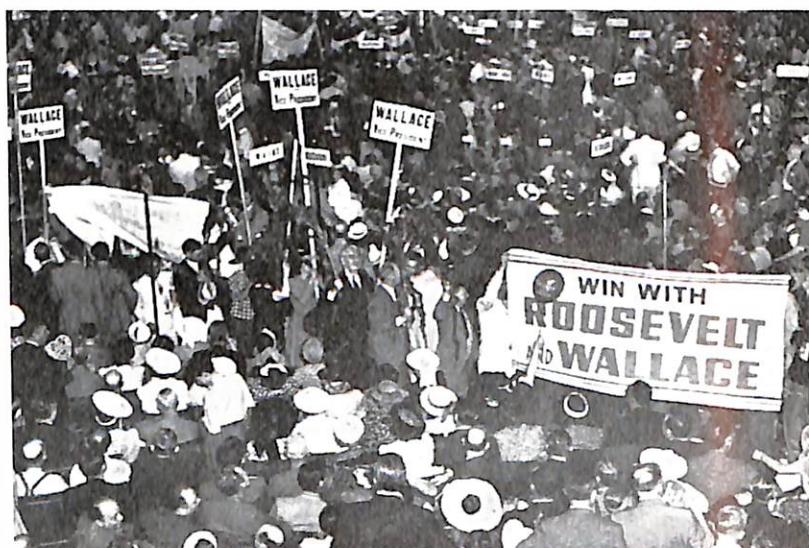
▲駐米大使に野村吉三郎大将（11月27日）米国での勤務が長く日米関係改善が期待されたが、結局交渉に失敗、開戦を阻止できなかった。「上海事変」時に爆弾テロで隻眼に。62歳。

毎日新聞社

◀食糧増産報国推進隊、内原に入所（12月20日）全国の農業従事者を対象に、4泊5日の訓練が茨城県内原にある「満蒙開拓青少年義勇軍訓練所」でスタートした。心身鍛練がおもな目的。写真は、隊列を組んで入所する滋賀県の食糧増産報国推進隊。

朝日新聞社

◀「朝鮮の舞姫」崔承喜、3年ぶり帰国（12月5日）米国、欧州などで150回もの公演を行い、民族的舞踊家として国際的名声を博した。27歳。創氏改名を拒み続け、戦後、北朝鮮に帰国した。

▼ラスコー洞窟壁画発見（11月1日）フランス南西部で少年たちが偶然、馬や野牛などの動物や、狩人を描いた色鮮やかな絵200点ほどを発見。一万数千年前の狩猟生活を伝える貴重な資料だった。

▲ルーズベルト（58）、米大統領に初の3選（11月6日）共和党ウィルキーに圧勝。独と交戦中の英仏へ武器援助を決めるなど、民主主義擁護の積極姿勢と経験が支持された。

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

昭和15年 12月

1（日）●大日本画劇協会結成。紙芝居も証明書必要に。
●豊橋市に旧式バスを改造した乗合馬車が登場。

2（月）●国民更生金庫設立。中小企業の転廃業に融資。

3（火）●警視庁、年末年始の朝風呂と昼酒を許可。

4（水）●慶大、全学生の服装検査実施。襟巻・「赤靴」・「変わりズボン」の着用者は学内立ち入り禁止。

5（木）●厚生省、厚生科学研究所を設立。所長・林春雄。

6（金）●内閣情報局設置。国策宣伝、言論統制など。

7（土）●閣議、経済新体制確立要綱を決定。公益優先、適正利潤承認など企業の国家管理を強化。

8（日）●職業野球秋季「連盟戦」終了。年度優勝は巨人、最優秀選手・スタルヒン、本塁打王・川上哲治。

9（月）●文部省、技術者不足緩和に実業学校卒業者の進学を制限。進学には校長推薦が必要となる。

10（火）●米、鉄鋼関連など軍需資材の輸出許可制実施。

11（水）●築地市場に数の子が大量入荷し前年の半値に。

12（木）●科学動員協会発足。科学教育振興が目的。

13（金）●警視庁、露店・飲食店三三三軒のうち九割で不潔な食器や腐敗酒などの違反、と発表。

14（土）●相撲協会、立見や芸妓同伴禁止など自粛決定。

15（日）●大雪山山麓に林野局管理の勇駒別宿舎落成。

16（月）●鉄道省、列車内へのスキー持ちこみを禁止。

17（火）●商工省、古本・文具などの公定価格を決定。

18（水）●ヒトラー、対ソ「バルバロッサ作戦」準備指令。

19（木）●出版の統制団体、日本出版文化協会が発足。

20（金）●大阪府、「不健全」とボクシング興行を禁止。

21（土）●「南支那方面軍」、深圳で香港との国境遮断。

22（日）●独伊へ陸軍軍事視察団（団長・山下奉文）出発。

23（月）●「紀元二千六百年」最後の「大安」の日で、東京・目黒雅叙園では一一〇組が結婚式。

24（火）●第七六議会召集。議席が党派から道府県別に。
●閣議、国民学校令決定。小学校を国民学校と改称、初等科六年・高等科二年を義務教育。

25（水）●正月興行の前売り開始に東京の各映画館は切符を求める人で長蛇の列。完売の映画館続出。

26（木）●日赤、従軍看護婦不足に規則改正。高小卒・養成期間二年の乙種看護婦制（準看護婦）を新設。

27（金）●小林一三商相、統制強化の岸信介次官に辞任を要求（「朝日新聞」記事削除され白地で発刊）。

28（土）●東京の闇取り引き摘発は前年の四倍と司法省。

29（日）●全国中等氷上選手権大会。参加は二校だけ。
●透谷賞に萩原朔太郎、副賞に太宰治が決定。

30（月）●上野駅帰省客であふれ、行列整理に憲兵出動。

31（火）●枢密院、民間登用など官吏制度改革案可決。

◀東京市機械化国防研究会は、8月12日から青年学校で自動車の運転訓練を開始。16日には、横綱男女ノ川が一日教官に。
共同通信社

流行語
"暗い時代"の庶民の本音

「あのねおっさん、わしゃかーなわんよ」。喜劇俳優の高勢実乗の台詞。高勢はチョンマゲにドジョウ髭、大目玉の下に墨を塗った珍妙なスタイルでこの文句を連発、大いに流行したが、この年、ついに「皇国精神にもとる」として禁止された。

「聖戦」。昭和一五年三月、衆議院で聖戦貫徹決議案が可決され、この決議に基づいて聖戦貫徹議員同盟が結成された。「聖戦」という言葉はそれまでポツポツと使われていたが、これ以後社会の前面に登場、二〇年八月まで時代のキーワードのひとつとして使われた。

「科学する心」。この言葉の言い出しっぺは当時の橋田邦彦文相で、「日本人として真に科学を愛せよ」という意味だという。もっともらしい説明だが、その内容は「戦争に役に立つ武器を考案せよ」というものであった。

「外米」。タイなどからの輸入米をさす。この年四月、東京では米穀商を通じて販売する米には、外米を四割混入、五月からは六割と定められた。内地米より風味も味も落ちる外米混入によって、人々は食糧難を一層強く実感した。

サラリーマン
所得税の源泉徴収は軍事費確保から始まる

所得税の源泉徴収は、全サラリーマンにとって恨みの対象。これがスタートしたのが昭和一五年三月だった。それまで所得税といえば金持ちが払うものであり、人事興信録に"多額納税者"として名前の載ることがステータス・シンボルとされていた。だから日中戦争が始まる前の昭和五年には、所得税を納めているものは全国で一〇〇万人にも満たなかった。

しかし戦争の拡大で軍事費不足も深刻化、そこで新しい財源として中・下層のサラリーマンに目をつけ、彼らからしぼり取ることを考えたのだ。それも"源泉徴収"という名目で、会社に税務署の業務を代行させ、有無を言わさず取り立てるという、政府にだけいいことずくめの方式だった。新しい所得税法が成立したのは三月二九日で、実施は四月一日から。サラリーマンは三月一五日までは旧法で、さらに四月三〇日までに新法による申告を要求され、踏んだり蹴ったりの年になった。（「文藝春秋」昭和一七年六月号）

◀松下井知夫作「推進親爺」の連載が、「アサヒグラフ」一〇月二三日号からスタート
日本漫画資料館提供

CM100年

ポスター「少国民みんなで飼はう軍用兎」（農林省）

▲毛皮用、代用肉用に、兎の飼育が奨励された。

珍事
大阪で流行！ 真綿の鏡餅

〔大阪発〕正月の餅も切符制で、一人当たり一キロの配給と決まったが、「でっかい鏡餅はもったいない」と、大阪では真綿の鏡餅が流行している。真綿の鏡餅は大阪の花柳界などでは古くから"三日の事始め"に用いていたが、干からびたり、ネズミにかじられたりする心配もないうえ、そのまま着物にも入れば布団にもなるというので、一躍、人気者になった。市内に五、六軒ある業者は、目下汗だくで製造に励んでいる。（「大阪毎日新聞」一二月一一日）

はやり歌

蘇州夜曲

作詞 西條八十
作曲 服部良一

君がみ胸に　抱かれて聞くは
夢の船唄　鳥の歌
水の蘇州の　花ちる春を
惜しむか　柳がすすり泣く

花をうかべて　流れる水の
明日のゆくえは　知らねども
こよい映した　ふたりの姿
消えてくれるな　いつまでも

髪に飾ろか　接吻しよか
君が手折りし　桃の花
涙ぐむよな　おぼろの月に
鐘が鳴ります　寒山寺

▶霧島昇と渡辺はま子の歌で大ヒット。後に、退廃的で感傷的にすぎるとして発売禁止を命じられるにいたった。

誰か故郷を想わざる

作詞 西條八十
作曲 古賀政男

花摘む野辺に　日は落ちて
みんなで肩を　組みながら
唄をうたった　帰りみち
幼馴染みの　あの友　この友
ああ　誰か故郷を想わざる

ひとりの姉が　嫁ぐ夜に
小川の岸で　さみしさに
泣いた涙の　なつかしさ
幼馴染みの　あの山　この川
ああ　誰か故郷を想わざる

都に雨の　降る夜は
涙に胸も　しめりがち
遠く呼ぶのは　誰の声
幼馴染みの　あの夢　この夢
ああ　誰か故郷を想わざる

◀歌は霧島昇。せつせつと故郷への想いを歌っただけに、戦場でも兵士たちに愛唱され大流行した。
福田俊二提供

▲岡山県和気郡伊部町で、特産の備前焼を用いて二宮金次郎の「陶像」を製作。
「写真週報」

三面記事
あわれ、力尽きた軍馬の最期

福岡県筑後地方は江戸時代から草競馬がさかんで、昭和初期まで競馬場が四つもあった。もちろん農作業にも馬が欠かせず、馬は文字どおり家族の一員だった。しかし昭和一五年頃から馬を飼う人が急速に減った。その理由は、以下のような噂が広まったためだ。

「中国で除隊になって帰ってきた人たちの話では、行軍中、道路脇に倒れとる馬がおって、日本兵とわかると動けん体を動かして、ヒ、ヒーンと悲しそうな声で鳴くそうな。日本軍が敵にやられた時、馬もやられて、そこまで逃げてきて力尽きたらしいが、自分をかわいがってくれる人が来たと思うて、最後の力をふりしぼってすり寄ってくるらしい」

敵の接近に馬が真っ先に気づいて騒いだため、馬だけが射たれ、小隊が助かったこともある。小隊長がピストルでその馬にとどめをさしたが、銃口をまばたきひとつせずに見つめていた馬の目がどうしても忘れられないという人もいた。当時、軍馬養成は至上命令だったが、話を聞いた農民たちは、とてもそんな気にはなれなかったという。（下川耿史『ちくご一〇〇年にっぽん一〇〇年』）

自然
サルの手借りて生き残り作戦

〔大阪発〕人的資源払底の折、大阪営林局では松・杉・檜などの種子取りに、人間の代わりにサルを使おうと考え、目下頭のいいサルを物色中である。人間の種子取りは邪魔になる枝を切り払いつつ取るが、サルは樹間や枝の下をたくみにくぐって取るから木を痛めることもなく、まさに一石二鳥の名案だという（「大阪朝日新聞」一一月一七日）

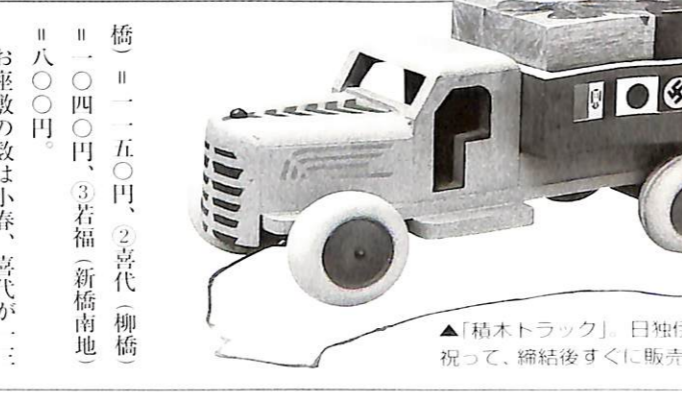
社会
臨時賞与を支給した社長が起訴される!?

〔名古屋発〕愛知県木曽川町の水新毛織（株）の社長が、賃金臨時措置令違反などで一宮区検に起訴された。同社は業績好調で、八月までに二六万円の収益をあげたため、紀元二千六百年記念の恩典として八二人の社員や男女工員に計四万円の臨時賞与を支給した。これが無許可だったため、時局柄、厳しく責任を問われたものである。（「新愛知」一〇月五日）

▲奈良県城島村の浦野家を本家とする8家族129人が記念撮影。全員の年齢を合わせると2600歳に。

データ
トップは一一五〇円 芸者の元旦の稼ぎ高

万事節約の時代でも、正月の芸者の派手な稼ぎだけは別。昭和一五年の元旦、東京の芸者が一日にどれくらい稼いだかを調べたところ、こんな結果が出た。①小春（新橋）＝一一五〇円、②喜代（柳橋）＝一〇四〇円、③若福（新橋南地）＝八〇〇円。

お座敷の数は小春、喜代が一三〇、若福は一四〇。一日でこれだけこなすのだから、座敷の襖を開いて「おめでとうございます」と挨拶するので精一杯。客はそれだけで八円八〇銭を取られた。（「話」五月号）

▲「積木トラック」。日独伊三国同盟成立を祝って、締結後すぐに販売された記念玩具。
日本玩具史研究所所蔵

この年の初もの

エア・コン車の販売を米パッカード社が発表

●**点字図書館**　本間一夫が東京・新宿に設立。

●**どんぐり酒**　どんぐりを発酵させたもので、神奈川県の酒屋さんが考案。同じ頃、理研でも発表。

●**胎児の性別判定法**　九大医学部の伊藤良二助教授が胎児が男の場合、妊婦の尿から睾丸を破壊しようとする酵素が排出されることをつきとめた。

五カ月で二八〇隻、約一四〇万トンを撃沈
ドイツ海軍が誇る奇襲攻撃の花形
Uボート〝狼群〟作戦で大成果！

第二次大戦中、連合国側を恐怖の底に突き落としたドイツの潜水艦・Uボート。名司令官カール・デーニッツに率いられ、大西洋を中心に暴れまわったこの〝狼群〟は、ヒトラーが持っていた膨大な兵器装備の中でも、戦争を勝利に導く可能性を秘めた最も強力な武器であった。

夜間浮上したまま敵船団を集中攻撃

Uボートが、敵船団への〝狼群（ろうぐん）〟作戦（ヴォルフ・パック）を本格的に実行に移したのは一九四〇年六月。ボルドーなど、ドイツのフランス占領によって手に入れたビスケー湾諸港を基地に、大西洋上での神出鬼没ぶりは、獲物をねらって寄り集まる〝狼〟そのものであった。

六月一四日朝、「U47」（数字は艦のナンバー）の潜望鏡に二〇隻の船団が映し出された。護衛艦と飛行艇に守られていたとはいえ、この船団はUボートのかっこうの餌食（えじき）だった。日暮れを待ち「U47」は攻撃を開始、三本の魚雷を次々に発射し、三隻の商船を撃沈させた。

一〇月一九日の早朝にはイギリスに向かう船団を発見、ただちに僚船を呼び集めると、「U47」をはじめ「U38」「46」「48」「100」の計五隻が行動を開始、その夜、一七隻もの船を撃沈した。Uボート六隻からなるほかの〝狼群〟もその前夜、一七隻を撃沈。二日間に計三八隻、約一五万五〇〇〇トンを沈める大戦果をあげる。

この年の六月から一〇月にかけては、まさにUボートの黄金期であったと言ってよい。撃沈した船舶は、なんと総計で二八〇隻、約一四〇万トンで、アメリカ、カナダからイギリス本土に運ばれる兵員や、食糧・油類等の戦時物資は、甚大な損害をこうむった。投入されたUボートは総計五七隻、そのうち失ったものはわずか六隻にすぎなかった。

Uボートによる多大な戦果は戦術上の勝利でもあった。その戦術の要は集団行動にあった。ひとたび敵船団を発見したUボートは一隻で攻撃せず、まず司令部に報告し、船団を海中から追跡しながら仲間のUボートの集結を待ち、夜間浮上したまま集団で襲いかかる。Uボートは浮上中のため、イギリスが誇った潜水艦水中探知装置（アスディック）も役に立たなかった。デーニッツは「この攻撃は三隻のUボートでも成功する実践的な方法」と、「戦時日誌」に書いている。

ねらわれた船団はUボートに翻弄（ほんろう）されるばかりであった。護衛艦が一隻のUボートをさがす間、ほかのUボートが船団内部にもぐりこみ、至近距離から魚雷を発射し、次々と海の藻屑（もくず）にしたのである。

生かされなかったデーニッツの頭脳

Uボートを海の〝狼群〟に育てあげたのはカール・デーニッツ（四八）。そのデーニッツが、ドイツ海軍総司令官エーリッヒ・レーダー提督により潜水艦隊指揮官に任命されたのは一九三五年七月のことであった。

第一次大戦時、Uボートの艦長としてイギリスの捕虜になった経験を持つデーニッツは、Uボート部隊の再建に情熱を傾けた。まず最初に着手したのは、Uボート乗組員自身に潜水艦の戦闘力の高さを認識させることであった。と同時に、作戦行動の徹底した訓練が実施され、夜間水上魚雷攻撃と複数のUボートで協同攻撃する〝狼群〟作戦が編み出された。

訓練の成果を踏まえて、デーニッツは一九三八年、海軍総司令官に対し、イギリスとの戦争が不可避であり、すぐに五〇〇〜七五〇トン級Uボート三〇〇隻を建造すべきとの意見書を提出。しかし総司令官に拒否されたため、イギリスがドイツに宣戦布告した一九三九年九月三日時

▶1943年4月17日、大西洋上で米沿岸警備艦「スペンサー」の爆雷攻撃を受ける「U175」。155隻建造された9C型の艦である。

広田厚司提供（4点とも）

▶カール・デーニッツは一八九一年、ベルリン生まれ。一九四五年、自殺直前のヒトラーから、総統兼国防軍総司令官に任命された。

▲Uボートに襲われ、爆発後沈没する英艦「アババ号」。船団の1隻が撃沈されると、護衛艦は救助にあたらざるをえず、攻撃は一層容易になった。

点で戦闘に参加できるUボートは、五七隻にすぎなかった。

しかし、Uボートの活躍はすさまじかった。特に以前からあったMVB型を改良したUボートⅦ型は、魚雷発射管を前後部に五門、魚雷を一四本搭載でき、水上速力は一七ノット（時速約三一キロ）、潜航命令後二〇秒以内に完全潜水し、航続距離一万六一〇〇キロという性能を誇っていた。

開戦後、イギリスの航空母艦「カレジアス」、戦艦「ロイヤル・オーク」などを次々に撃沈、一九四〇年三月までに、約二〇〇隻、七〇万トン余りを海に沈め、〝狼群〟作戦実施への路を開いたのだった。

デーニッツの主目標は、海運国イギリスの補給線を断つことであった。しかしUボートがイギリスを孤立させる最強の兵器であることを理解できたのは、デーニッツ自身をのぞけば、開戦時イギリス海軍大臣だったウインストン・チャーチルぐらいのものだったろう。

一九四〇年一一月以降、戦局は一変、出動可能なUボートは修理のため激減し、冬を迎えた大西洋の気象条件はUボート戦には不利となった。しかも、連合国側は苦杯をなめた緒戦の敗北を教訓として、航空機や航空母艦、高性能の小型レーダーを開発、徹底したUボート狩りを展開、その装備と兵力の前にUボートは次第に牙を抜かれていったのである。

「ヒトラーがデーニッツの意見を聞き、三〇〇隻のUボートを早急に建造していたら、ドイツ軍の勝利は間違いなく、歴史は変わっていたはずです。デーニッツは情報と潜水艦作戦を統合した名戦略家でしたが、彼の頭脳は生かされなかった。第二次大戦中一二〇〇隻ものUボートが造られましたが、ほかの海戦に便宜使用され、本来の任務である通商破壊作戦からはずされたことが最大の敗因でした」

こう語るのは、元海上自衛隊「なるしお」艦長で、現在海戦史研究家・翻訳家の秋山信雄氏である。

▶商船を砲撃する「U123」。第二次大戦初期までは、Uボートは通常水上を航行し、〝潜ることもできる艦〟だった。

外から見たNIPPON

荷風、谷崎を愛した〝親日文化人〟周作人の「東京を懐う」

――佐伯 修

「私が東京での生活を喜んだというのは、つまり日本の旧式の衣食住であった。このほかには新書や古書を買う快楽で、日本橋、神田、本郷一帯の洋書和書の新本屋や古本屋、雑誌を並べた露店や夜店などを日夜ひやかして廻り、疲れることを知らなかったものだ」（「東京を懐う」）

周作人（一八八五～一九六七）は、ともに日本に留学した兄の樹人、すなわち魯迅らと、近代中国の文学革命をリードし、小品文の名手として知られた。

この年、日本でも翻訳され、広く読まれた随筆集『瓜豆集』には、右の「東京を懐う」ほか、日本についての短文がいくつか収められている（執筆はいずれも一九三六年、引用は松枝茂夫訳『周作人随筆』より）。

兄・魯迅が、同時代の日本文学でも、白樺派やプロレタリア文学の系統に注目したのに対し、周作人は、永井荷風、谷崎潤一郎、木下杢太郎らの、耽美的、反時代的でメランコリックな世界を愛した。そんなことから両者は正反対の人物だったととらえられがちである。しかし、たとえば、当時、中国国内に根強かった、日本の軍国主義を憎むあまり、日本文化を全否定して排斥しようとする風潮を、おろかなことと考える点などでは両者の意見は一致していた。

「日本の文明を愛好するがために、その一切はすべてよいと考え、その醜悪面に対してまでこれを庇い立てしようとする人も、あるいはまたそれと反対に、日本の暴力を憎悪するがために、翻ってその一切を打倒し、日本に文化はないと考える人も、もしそんな人があるとすれば、どちらも同様の錯誤に陥っているのです」（「日本文化を語る書簡 その二」）

そんな周作人は、日本占領下の北京にとどまり、日本側も知名度の高い彼の名を〝親日文化人〟として最大限利用、親日派地方政府は彼を要職につかせた。そのため、戦後の彼は、〝対日協力者〟の十字架を背負い、蟄居生活を送ることになる。しかし、彼は結構辛辣な日本批判もしていた。

「日本の一部のファシスト中毒患者は自分の国民の幸福は西洋に勝っている、少なくとも等しい、ただアジア洲をまだ併呑できていないことだけが、いささか面映ゆいと考えている。しかし日本の芸術家は『物云えば唇寒き』悲哀を感じている。これこそがまさに東洋人の悲哀なのだ」（「東京を懐う」）

「文革」のさなか、亡兄・魯迅が、〝ホメ殺し〟に近い偶像化をされる一方で、周作人は紅衛兵による迫害の中、北京で世を去った。

▶日本人を妻とし、北京をこよなく愛した。

往きて還らぬ

▲1月4日　初代根津嘉一郎（79）
実業家。明治37年衆議院議員。翌年東武鉄道社長となり、〝鉄道王〟と呼ばれた。死後に根津美術館が設立された。

▲2月23日　2代目市川左団次（59）
歌舞伎俳優。明治39年2代目襲名、当たり役に「修禅寺物語」の夜叉王。小山内薫とともに演劇に新分野を開いた。

▲3月13日　山室軍平（67）
日本救世軍のリーダー。明治28年救世軍入隊、大正15年東洋人初の救世軍司令官に。貧民救済、廃娼運動に尽力。

日本山岳会提供

▲3月18日　W・ウエストン（78）
英の宣教師、登山家。1888～1915年の間に3回来日。日本アルプスの諸山を踏破し、日本に近代登山を初めて導入。

▲6月5日　徳川家達（76）
徳川家の16代で、公爵・政治家。明治36年から30年間貴族院議長をつとめた。日赤社長、済生会会長なども兼任。

▲6月29日　パウル・クレー（60）
スイスの画家、版画家。抽象絵画の開拓者で、童画のような独特の幻想世界を描いた。「パルナッソス山へ」など。

▲7月7日　曾我廼家五九郎（64）
喜劇俳優。明治40年五九郎を名乗り、浅草を本拠に活躍。「のんきな父さん」で評判を得て、映画にも出演。

毎日新聞社

◀7月8日　吉行エイスケ（34）
作家。昭和初期、新興芸術派倶楽部の結成に加わり、「新種族ノラ」を発表。作家・吉行淳之介、女優・吉行和子の父。左は妻・あぐり。

▲8月21日　L・D・トロツキー（60）
レーニンらと並ぶロシア革命の指導者。1929年国外追放され、以後スターリン批判を行う。メキシコで暗殺された。

▲9月12日　5代目中村歌右衛門（74）
歌舞伎俳優。明治44年5代目襲名。女形を得意とし、明治後期の歌舞伎を率いた。当たり役に「桐一葉」の淀君など。

▲10月11日　種田山頭火（57）
俳人。大正14年出家、翌年から生涯を放浪のうちにすごし、自由律俳句の名句を多く残した。句集『草木塔』など。

▲11月24日　西園寺公望（90）
政治家。明治39年、44年内閣を組織、以後元老として活動。大正8年、パリ講和会議の首席全権をつとめた。

▲12月21日　S・フィッツジェラルド（44）
『偉大なるギャツビー』（1925年）で知られる米の小説家。妻ゼルダとの放蕩生活でも話題に。心臓麻痺で急死。

ミニ事典

1940年のキーワード

た。八月三一日、和平条件が提示され、日本は一一月には汪兆銘政権不承認など重慶側の提案を呑んで交渉に入る予定だったが、その回答は伝わらず、この工作も実らなかった。

出産力調査

一夫婦当たりの出生児数の全国平均を求めるための調査。前年八月、厚生省は多子家庭表彰要綱を発表、「生めよ殖やせよ」の人口政策を前面に掲げた。一月二〇日、その一環として出産力調査を実施、全国一三万六六二七組の夫婦を調査した結果、平均は三・五人だった。子だくさんは低所得者層や、農業従事者に多く、都市サラリーマンは少なかった。

電力警官

電力飢饉を背景に国策となった節電の円滑な実効をはかるため、電力調整令執行細則に基づいて違反者の取締りにあたった警視庁の警察官。二月一〇日、警部補一人、巡査部長一人、巡査二人で組織。特別のもの以外不許可となった広告灯・装飾灯などや特殊飲食店、遊戯場、興行場、街路などに目を光らせ、管下各署と連絡を取りながら違反者を摘発、国家総動員法によって処罰した。

桐工作と銭永銘工作

日本が行った日中戦争終戦工作。桐工作は前年来、陸軍が重慶政府の要人・宋子文の弟という宋子良と接触、三月七日から一〇日に会談が始まったが進展せず、九月に打ち切り。宋はニセものだった。銭永銘工作は重慶側経済界の大物、銭を介して行った。八月三一日、和平条件が提示され、日本は一一月には汪兆銘政権不承認など重慶側の提案を呑んで交渉に入る予定だったが、その回答は伝わらず、この工作も実らなかった。

日本ニュース映画社

人気のあるニュース映画を報道統制の手段として利用するため、フィルム不足をテコに四月九日、政府が大毎・東日、朝日、読売、同盟各社のニュース映画部門を合併、設立させた国策会社。社長・古野伊之助。六月に第一号映画が公開され、一〇月からは六大都市、翌年一月からは全国映画館で強制上映された。

海軍図上演習

海軍が、作戦や戦闘の要領などを研究・訓練するために図上で行う演習。五月一五日から二〇日まで日米戦争に関して図上演習が行われ、その結論は次のようになった。①戦争は速戦即決にすべき。日本の持久力は最大二年、②戦術上、短期決勝の望みは少ない、③南方の油田地帯を確保してもそれを輸送する海上交通路確保が困難、などだった。この時期に実施したのは、武力南進論者への海軍による牽制だったと言われる。

第百一号作戦

日中戦争を一気に終結させるため、中国の戦時首都・重慶や西安に対して、五月一八日から行った無差別爆撃。世界航空戦史上初の同一都市に対する戦略爆撃だった。計画立案者は「支那方面艦隊」参謀長・井上成美。海軍第一連空司令官・山口多聞、第二連空司令官・大西瀧次郎が指揮した。新鋭機「零戦」まで投入した爆撃は、九月五日まで七二回におよび、住民や市街地に甚大な被害をもたらしたが、重慶制圧は失敗した。

▲重慶を爆撃する日本軍機。「零戦」の出現までは、中国機や対空砲火による被害も大きかった。

自由フランス委員会

独軍の進攻によってロンドンに逃れたフランスのド・ゴール将軍が六月一八日、本土に向けて対独抗戦（レジスタンス）の継続を訴え、結集を呼びかけた組織。この頃全土の三分の二がドイツに占領され、わずかに地方都市ビシーにペタン元帥を首班とする右翼政権が成立していた。レジスタンスの戦士たちは「ロレーヌ十字架」を旗印に、主権と自由を回復する長く苦しい戦いを続けた。

▲亡命先のロンドンで仏義勇兵・自由フランス軍を閲兵するド・ゴール将軍。

修学旅行禁止

軍需物資の円滑な輸送をはかるため、六月二二日、文部省が通牒を出した二泊三日以上の「物見遊山的な」修学旅行禁止措置。すでに五月に次官会議で不要不急の乗車を差し控えるよう決め、鉄道の軍需優先は定着しつつあった。修学旅行禁止は、翌一六年から交通事情の悪化を理由に、中等野球の全国大会などが次々に中止に追いこまれる前触れになった。

「一億一心」

近衛文麿首相が、組閣翌日の七月二三日、ラジオ放送の中で言った言葉。「大御心を仰いで一億一心、真実の御奉公を」と使って流行語になった。また、近衛は七月の「基本国策要綱」にも、国是は「八紘（世界）ヲ一宇トスル（ひとつ屋根の下に治める）」などと記しており、政府の公式文書にこうした神がかり的な言葉を持ち込んだ最初の宰相だった。

テレビ実験放送

オリンピック東京大会での本放送を目的に、日本放送協会が実施したテレビ放送のテスト。前年五月に公開実験放送が行われ、五輪中止後も続けられたが、一〇月二日から一一日まで日本橋・三越での実験は大がかりなものだった。協会の技研からは、中村メイ子出演のドラマ「謡と代用品」が送信され、三越の受像機に映し出された。しかし、本放送直前で戦況逼迫により翌年六月末中止、研究者は兵器研究に動員された。

共同通信社

▲10月、東京・三越での実験は成功した。受像機は日本コロムビア製で12インチ。

大日本産業報国会（産報）

労働組合解散後の労使一体の官製労働者組織。各事業所と地域ごとに設立されていた産業報国会の全国組織。近衛文麿の掲げる新体制運動にこたえて一一月二三日、産業報国連盟を改組して創立された。総裁・金光庸夫厚相、会長は元日鉄会長の平生釟三郎。中央本部―道府県産報―支部産報（警察署ごと）―単位産報（事業所ごと）のピラミッド型組織で、翌年には労働者の約七割が所属した。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1940

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ 飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
フーゴ・イエーガー 大鷹淑子 乙咩雅一 影山光洋 影山智洋 坂本万七 但馬一憲 服部昌一郎 平野美津子 広田厚司 福田俊二 藤本四八 松田正志 門奈次郎 吉岡和喜治 ARCHIVE PHOTOS 朝日新聞社 アメリカンフォト・ライブラリー オリオン・プレス キネマ旬報社 共同通信社 クロマート 国際フォト JPS TIME LIFE PPS 毎日新聞社 ユニフォト・プレス ROGER-VIOLLET 東芝ライテック マツダ映画社 三菱重工業長崎造船所 吉本興業 大宅壮一文庫 宮内庁正倉院事務所 埼玉県平和資料館 東京国立博物館 豊島区立郷土資料館 トヨタ博物館 日本カメラ博物館 日本玩具史研究所 日本近代文学館 日本漫画資料館 日本山岳会

定価560円
雑誌 23712 3/10 T1123712030567
Ⓛ 2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社